

日野市生物多様性地域戦略 (骨子案)

2017.8.1

本資料はこれまでの協議内容をもとに、章・節の構成などを骨子案としてお示ししたものです。そのため、章・節により本文の書き込みの度合いは異なります。

◆修正を加えた項目

- ・ 日野市の生きもの (P22～36)
- ・ 計画期間 (P38～39)
- ・ 取組みの体系 (P41)
- ・ 日野市生物多様性地域戦略の取組みの内容について
(P42～67)

◆新しく検討が必要な項目

- ・ 重点プロジェクト (P68～71)
- ・ 推進体制 (P72)
- ・ 進行管理 (P73)

目 次

1. 策定の背景.....	4
1.1 生物多様性とは.....	4
1.2 生物多様性に関連する動向.....	7
1.2.1 国内外の動向.....	7
1.2.2 東京都の動向.....	7
1.2.3 日野市の動向.....	7
1.3 地域戦略策定の目的.....	9
2. 現状と課題.....	10
2.1 社会環境.....	10
2.1.1 位置と面積.....	10
2.1.2 人口.....	10
2.1.3 産業構造.....	12
2.2 自然環境.....	13
2.2.1 地形.....	13
2.2.2 水環境（河川・用水・湧水）.....	14
2.2.3 みどり.....	15
2.3 土地利用の変遷.....	17
2.4 日野市の生きもの.....	22
2.4.1 日野市全体の生物相.....	22
2.4.2 生息環境区分ごとの特徴.....	28
3. 基本的事項.....	37
3.1 位置づけ.....	37
3.2 対象区域.....	37
3.3 計画期間（案）.....	38
3.3.1 短期目標.....	38
3.3.2 中期目標.....	38
3.3.3 長期目標.....	39
3.4 基本理念.....	40
3.5 基本方針.....	40
4. 生物多様性地域戦略の取組み.....	41
4.1 取組みの体系（案）.....	41
4.2 日野市生物多様性地域戦略の取組みの内容について（案）.....	42
取組みの方向：1. 自然体験活動の推進.....	42
取組みの方向：2. 生物多様性の情報共有・発信.....	46
取組みの方向：3. 多様な主体が連携できる体制構築.....	49
取組みの方向：4. 市民活動による生物多様性の推進.....	53
取組みの方向：5. 自然と人が支え合うまちづくり.....	56
取組みの方向：6. 自然環境の保全.....	59

取組みの方向：7. 生きものを育む環境の創出と質の向上	62
取組みの方向：8. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策	65
4.3 重点プロジェクト（案）	68
4.3.1 重点プロジェクトの考え方	68
4.3.2 重点プロジェクト（案）	68
5. 推進体制と進行管理	72
5.1 推進体制（案）	72
5.1.1 推進体制について	72
5.1.2 地域戦略を推進する組織体	72
5.1.3 推進体制	72
5.2 進行管理（案）	73
5.2.1 進行管理の把握	73
5.2.2 PDCA による継続的な実施と地域戦略の見直し	73

1. 策定の背景

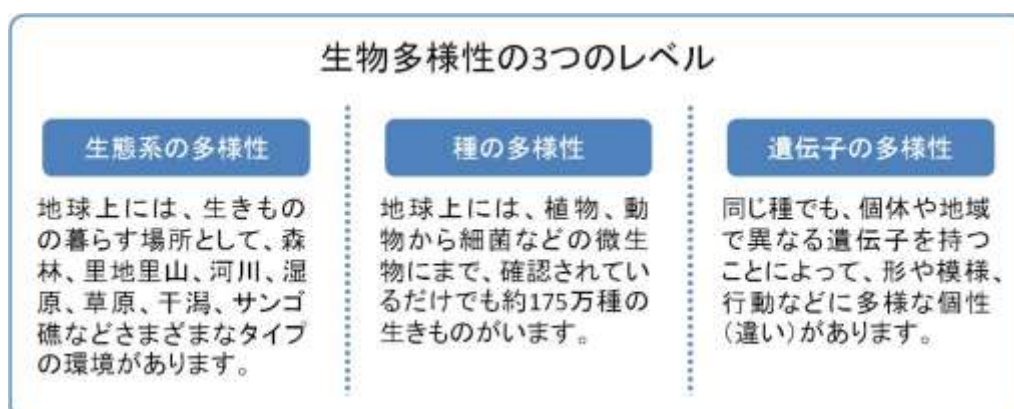
1.1 生物多様性とは

私たちが暮らす日野市は、市域の北側を多摩川、中央部を浅川が流れており、湧水が多数点在しています。さらに、日野台地や多摩丘陵などの起伏に富んだ変化の多い地形と、そこで暮らす人の利用によって、さまざまな環境を作り出しています。そして、多様な環境に多様な生きものが生息し、豊かな生態系が育まれています。

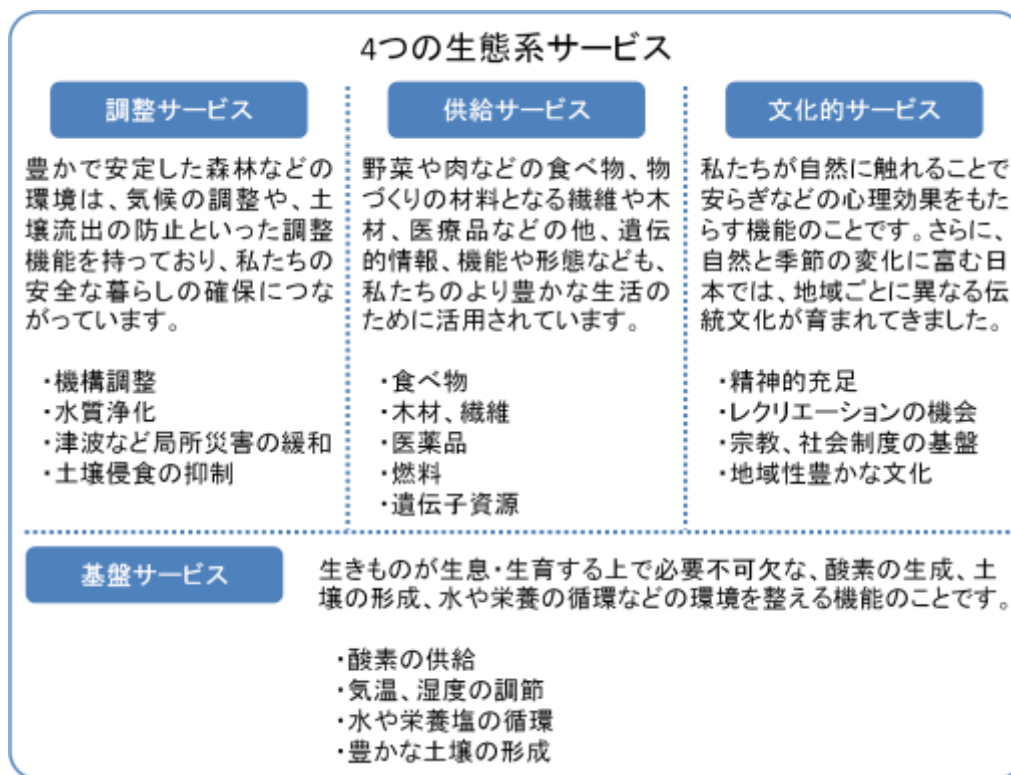


生きものは、私たち人間のように、同じ種であってもそれぞれに個性を持っています。さらに、他の生きものとの間にも「食う－食われる」の関係や「共生」「寄生」などのつながりを持ちながら、その環境に応じた生態系を形成しています。

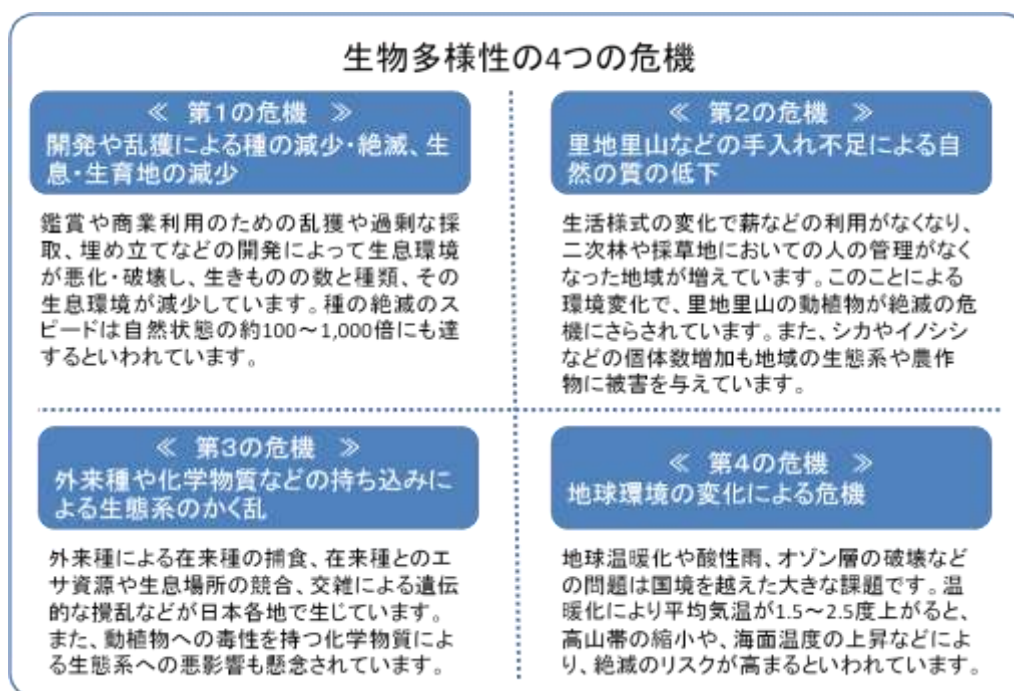
このような、多様な生きものの繋がりや違いのことを、「生物多様性」といい、生物多様性には「遺伝子の多様性」、「種の多様性」、「生態系の多様性」という3つのレベルがあります。



私たちの暮らしはさまざまな生きものや環境に囲まれており、これらの多様な生態系からもたらされる、水や食べ物、気候の安定などの恵み（生態系サービス）によって支えられています。これらの生態系サービスは大きく 4 つに分類することができます。



地球が 40 億年という長い時間をかけて育んできた生物多様性は、私たちの生活に欠かすことのできない恵みをもたらしています。しかし、生物多様性は人間活動や地球環境の変化などにより、近年その損失が進んでおり、多くの生きものが絶滅の危機に瀕しています。



日野市においても、生物多様性の4つの危機に該当する課題が発生しています。例えば、丘陵地・農地の宅地化や河川整備、雑木林の荒廃、水田の減少は生きものの生息環境の減少に繋がります。また、多摩川河川敷のハリエンジュ・シナダレスズメガヤ、ガビチョウなどの外来種による生態系のかく乱など、日野市の豊かな生態系に悪影響を及ぼす恐れがあり、見過ごすことができません。

私たちが、自然と共に育んできた豊かな生態系やその恩恵を、次の世代に受け継いでいくために、自然や生きものとの共生のあり方を見直す必要があるといえます。



1.2 生物多様性に関連する動向

このような生物多様性の問題の解決に当たるため、日本をはじめ世界各国で取り組みが進められています。

1.2.1 国内外の動向

平成 4 年にブラジルのリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議（地球サミット）」では「生物多様性条約」が採択され、初めて生物多様性に関する国際的な取り決めが定められました。

また、平成 22 年には「生物多様性条約第 10 回締約国会議」が愛知県で開催され、生物多様性の低下を止めるための世界的な取組みの目標である「愛知目標」が採択されました。

日本では平成 5 年に「生物多様性条約」を締結し、それに基づき平成 7 年には「生物多様性国家戦略」を策定しました。生物多様性国家戦略はその後、3 回の改定を経ており、平成 24 年には「生物多様性国家戦略 2012-2020」が策定されています。

平成 20 年には「生物多様性基本法」が制定され、都道府県や市町村においても、生物多様性国家戦略に基づき、“生物多様性地域戦略”を策定することが努力義務として定められました。全国の基礎自治体においては、現在 55 の自治体が策定済みであり（複数自治体による協働策定含む）、都内では 11 の自治体が策定済みです（平成 28 年 12 月 31 日現在）。

1.2.2 東京都の動向

東京都では、昭和 47 年に「東京における自然の保護と回復に関する条例（自然保護条例）」を制定し、既存の緑地を保全する手法として、保全地域制度等を創設しました。平成 24 年には東京都における生物多様性地域戦略である「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」を策定しました。

1.2.3 日野市の動向

日野市では、世界的に生物多様性に関連する枠組みが生まれる前から、清流条例の施行や水生生物調査の取り組みが行われており、水やみどりといった自然に対して、市民の関心が高く、市も関連する活動を実行していました。

さらに、平成 22 年には「第 2 次環境基本計画」を策定しており、背景として生物多様性に関連する動向を示した上で、望ましい環境像として「私たちの継承した自然環境を保全し、次の世代に引き継ごう」と定めています。

表 1-1 生物多様性に関連する日野市と国際社会・国・都の動向

年	世界・日本・東京都の動向	日野市の動向
昭和47年 (1972年)	・【都】「東京における自然の保護と回復に関する条例(自然保護条例)」制定	
昭和51年 (1976年)		・「日野市公共水域の流水の浄化に関する条例」(清流条例)施行
平成2年 (1990年)		・「水生生物調査」開始
平成4年 (1992年)	・【世界】環境と開発に関する国連会議(地球サミット)「生物多様性条約」採択 ・【国】「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」制定	
平成5年 (1993年)	・【国】「生物多様性条約」締結	
平成7年 (1995年)	・【国】「生物多様性国家戦略」策定	
平成13年 (2001年)		・「第四次日野市基本構想・基本計画(日野 いいプラン 2010)」策定 ・「みどりの基本計画」策定
平成14年 (2002年)	・【国】「新・生物多様性国家戦略」策定	・「用水守制度」開始
平成16年 (2004年)	・【国】「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」制定	
平成17年 (2005年)		・「環境情報センターかわせみ館」開設 ・「日野市観光基本計画」策定
平成18年 (2006年)		・「清流保全-湧水・地下水の回復と河川・ 用水の保全-に関する条例」改定 ・「日野市清流保全-湧水・地下水の回復と 河川・用水の保全-に関する条例」制定
平成19年 (2007年)	・【国】「第3次生物多様性国家戦略」策定	
平成20年 (2008年)	・【国】「生物多様性基本法」制定	
平成22年 (2010年)	・【世界】生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) 「愛知目標」採択 ・【国】「生物多様性国家戦略 2010」策定	・「第5次日野市基本構想・基本計画(2020 プラン)」策定 ・「第2次日野市環境基本計画」策定
平成24年 (2012年)	・【国】「生物多様性国家戦略 2012-2020」策定 ・【都】「緑施策の新展開～生物多様性の保全に 向けた基本戦略～」策定	
平成26年 (2014年)	・【国】「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」改定	・「第3次日野市農業振興計画・アクション プラン」策定
平成27年 (2015年)	・【都】「東京都環境基本計画 2016」策定	

1.3 地域戦略策定の目的

日野市は、市域の北側を多摩川、中央部を浅川が流れ、また市内各所に用水路が広がっているほか、湧水も多数点在する等、「水の郷」と呼ぶにふさわしい環境にあります。

また、多摩丘陵や崖線等、自然度の高い緑や水田・畑等の農地が市内に点在しており、首都近郊に位置しながらも比較的豊かな生態系が維持されています。

かつては、人はこうした身近な自然環境の中で食住の糧を得て、そこに暮らす生きものと共生しながら暮らしてきました。このような中、幸いにも日野市においては、都市部では失われつつある自然環境や生物多様性は、ふるさと日野を愛する市民の皆さんの地道な保全活動と、市による多年にわたる環境施策の積み重ねによって現在の景観を維持しています。

しかし、これらの取組みにもかかわらず、都市化による緑被率や耕地面積、生産緑地面積の減少や水路の廃滅に歯止めがかからない現状があります。

このたび策定する生物多様性地域戦略は、これまでの日野市の取組みの成果を総括すると共に、「緑と清流のまち ひの」を持続可能なまちづくりの根幹に据え、将来にわたる日野市の目指すべき生物多様性の姿とそれを実現するための具体的な取組みを示し、私たちが先人から引き継いだこの身近で大切な自然環境を次の世代にしっかりと伝え、どこにも類似しない日野らしいまちづくりを目指す計画として位置付け、運用していくものです。

2. 現状と課題

2.1 社会環境

2.1.1 位置と面積

日野市は東京都のほぼ中央に位置し、東京駅から 30km 圏にあります。東西 7.59km、南北 5.85km で、東西にやや広がった形をしており、面積は 27.53km² です。

市内には JR 中央線が通っており、日野駅から新宿駅までは約 40 分でアクセスできる立地です。



図 2.1-1 日野市の位置

引用：日野市の現状と課題(平成 22 年)

2.1.2 人口

日野市の人口は、市制施行の 1960 年代から 1980 年代にかけて急増しており、東京全体の爆発的人口増の受け皿となっていました。昭和 50 年（1975 年）からは増加率が徐々に減少し続け、一時的に人口減少することもありましたが、平成 12 年（2000 年）以降は再び人口が増加しはじめました。平成 27 年（2015 年）の時点で人口は 186,283 人です。

全体的な傾向としてまだ人口の微増が続いている状態であることから、住宅需要によるさらなる宅地化が懸念されます。

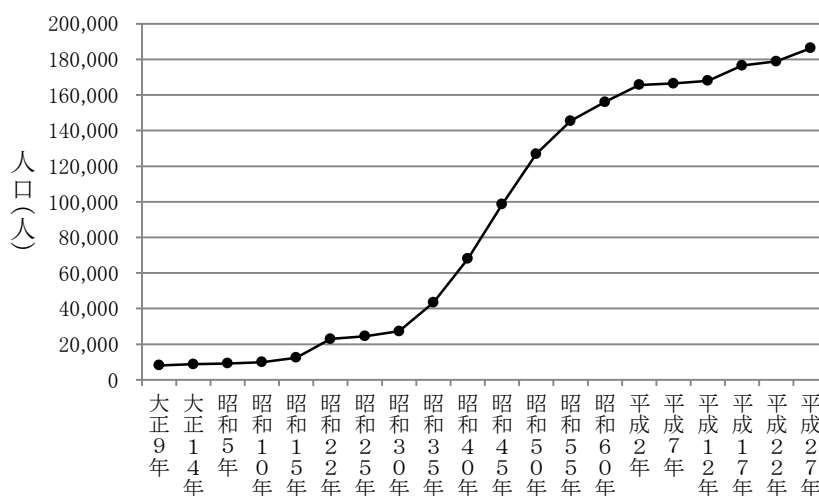


図 2.1-2 日野市の人口推移

出典：総務省統計局 国勢調査

現在の日野市の人口は微増傾向ですが、平成 37 年（2025 年）をピークに減少局面に入ることが予想されています。年少人口・生産年齢人口は既に減少局面に入りつつありますが、老年人口は平成 62 年（2050 年）まで増加し続け、高齢化率が高まり続けると推測されています。将来の人口割合の構成から、今後は高齢化による担い手不足が進行すると考えられます。



図 2.1-3 日野市の人口の将来推計

引用：日野市人口ビジョン(平成 28 年)

家族類型別に一般世帯数をみると、平成 7 年以降、単独世帯の比率が最も高くなっており、特に高齢単独世帯が増加傾向となっています。一方、その他の夫婦のみ世帯と夫婦と子供世帯は減少傾向で、子育て世代の比率の減少が見られます。子育て世代に魅力を感じてもらい、受け入れられるまちを目指すことや、高齢単独世帯をサポートする取組みは、今後の課題です。

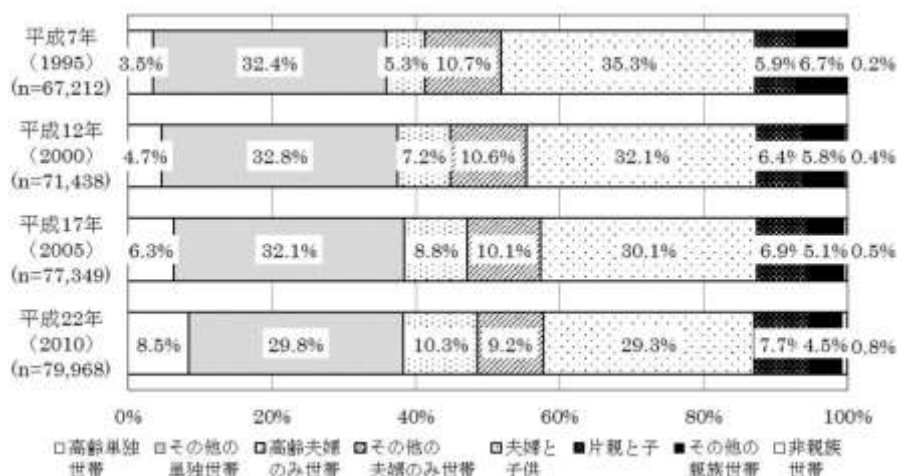


図 2.1-4 日野市の家族類型別一般世帯数

引用：日野市住宅マスタープラン(平成 27 年)

2.1.3 産業構造

平成 22 年時点での 15 歳以上従業者数の合計は 81,901 人でした。産業 3 部門の就業者数と就業者割合は図 2.1-5 のとおりです。第 1 次産業の就業者割合は 1%未満であり、非常に少ない構成比率となっています。

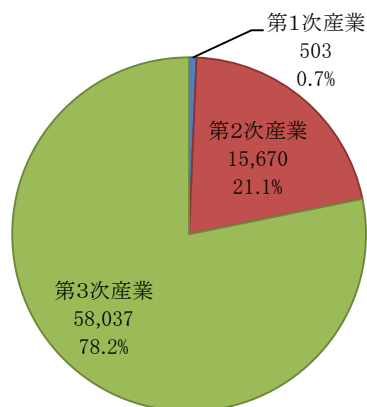


図 2.1-5 日野市の産業別就業者の割合

出典:総務省統計局「国勢調査」(平成 22 年)

2.2 自然環境

2.2.1 地形

日野市の地形は北西部の日野台地、南部に位置する多摩丘陵、多摩川と浅川の周辺に広がる沖積地（低地）、日野台地と沖積地の境界である崖線、多摩川と浅川に代表される河川の5つに大きく分けられます。この5つの地形が市域に存在することは、日野市の特徴であり、自然環境の豊かさや生物多様性の基盤となっています。

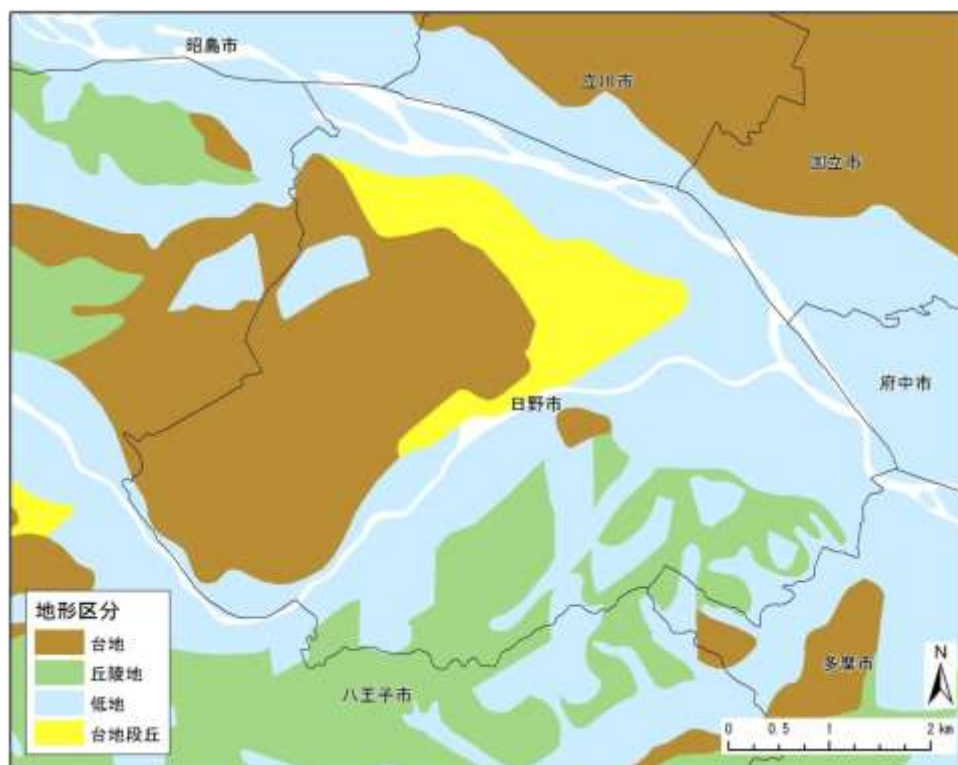


図 2.2-1 日野市の地形区分

出典：国土交通省 国土情報課 20 万分の 1 土地分類基本調査 地形区分
国土交通省 国土地理院 基盤地図情報

2.2.2 水環境（河川・用水・湧水）

日野市の主な河川は多摩川と、多摩川水系の浅川、谷地川、程久保川の4河川です。低地部には延長116kmの用水路が整備されており、13本の幹線用水路（日野用水上堰、日野用水下堰、川北用水、上村用水、平山用水、南平用水、豊田用水、上田用水、新井用水、高幡用水、向島用水、落川用水、一の宮用水）と黒川水路で構成されています。このような用水のある風景は、市民の生活に潤いと安らぎを与えるとともに、重要な観光資源にもなっており、平成7年には国土交通省（旧国土庁）の「水の郷100選」に選ばれています。平成13年には潤徳小学校と滝合小学校の周辺2箇所を「水辺の楽校プロジェクト」に登録し、様々な環境活動を展開しています。また、崖線の周辺や多摩丘陵の谷戸では179箇所の湧水が存在し、3箇所が「東京の名湧水57選」に選定されています。

日野市ではこれらの豊かな水環境を守るために、昭和51年に「日野市公共水域の流水の浄化に関する条例（清流条例）」が制定され、用水の年間通水が実施されています。さらに、平成18年には「日野市清流保全－湧水・地下水の回復と河川・用水の保全－に関する条例」が制定され、河川や用水だけでなく湧水や地下水も含めた水辺の保全に努めています。

水のある環境は日野市の大きな特徴ですが、用水路は水田の減少に伴い利用価値が失われ、減少傾向にあるのが現状です。用水路を減らさずに、どのように新しい価値を与えて維持していくかは、これからの課題となっています。

表 2-1 流水のある用水路延長

	昭和55年(1980年)	平成3年(1991年)	平成21年(2009年)
距離(km)	218	177	116

出典: 用水集計表(日野市)

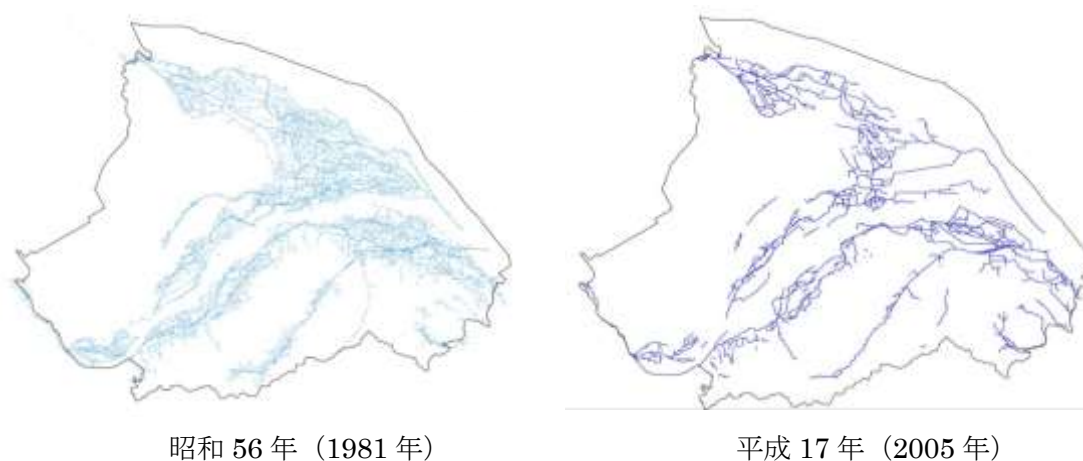


図 2.2-2 日野市の用水路の分布変化

出典: 日野市水路幹線図を基に作成

2.2.3 みどり

東京都の生物多様性地域戦略である「緑施策の新展開～生物多様性の保全に向けた基本戦略～」では、日野市は「武蔵野の自然ふれあいエリア」に該当しています。エリアの概要は以下に示すとおりですが、日野市を含む広域的なみどりの特徴を表しています。

「武蔵野の自然ふれあいエリア」の特徴

- 丘陵地の樹林は、過去に薪炭林として利用・管理されていたクヌギ・コナラ等の二次林を主体とし、スギ・ヒノキの人工林も散在する。昔ながらの景観を有する谷戸や里山は貴重な存在となっている。
- 丘陵地では豊かな住環境を有する住宅地や緑が広がっている。農業も行われる里地里山、宅地、樹林、田畑が混在し、まとまった樹林や河川敷を中心に、人の生活をうまく利用する形で生態系が成立している。

日野市内のみどりを考える場合、地形ごとに様々なみどりが形成されており、それぞれ特徴が異なります。日野台地は主に住宅地となっており、街路樹や生け垣等がまちなかのみどりを形成しています。沖積地では農地が帯状に存在し、浅川や多摩川の河川敷には草地を主体とするみどりが広がっています。日野台地と沖積地との境界には、細く長い崖線の樹林地が残っています。また、多摩丘陵にはクヌギ、コナラ等の雑木林がまとまった面積で存在します。

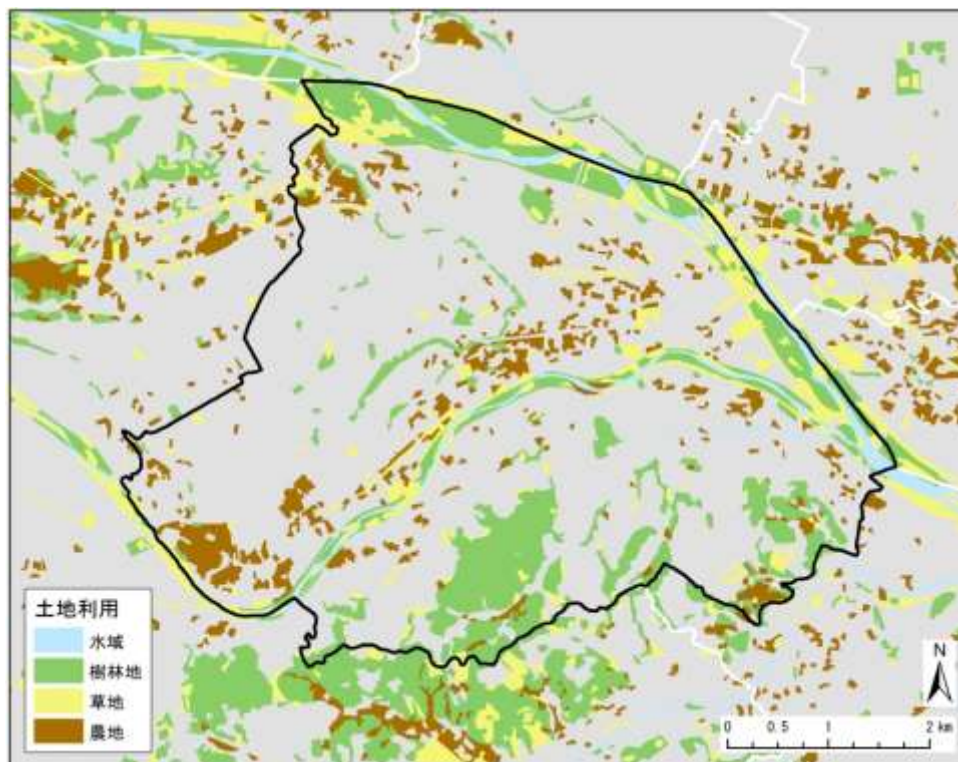


図 2.2-3 日野市の土地利用の分布

出典:環境省第 6・7 回自然環境保全基礎調査現存植生図(東京都 平成 26 年)

図 2.2-4 は平成 24 年における日野市の土地利用面積を示しています。

主なみどりは森林・原野・農用地として分布しています。原野は野草地等、灌木類の生育する自然地や荒地、裸地を指しています。

自然に近いみどりである森林や原野は、野生生物の生息場所として重要な環境であるため、野生生物の生息環境を確保するためには適切に保全し、減らさないための取組みが必要です。

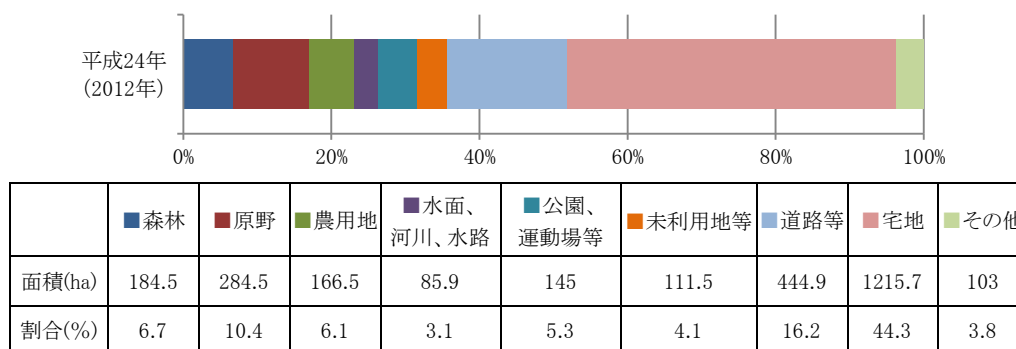


図 2.2-4 日野市の土地利用面積

出典：東京の土地利用 多摩・島しょ地域(平成 24 年)

図 2.2-5 は昭和 60 年（1985 年）からの耕地面積の推移を示しています。

耕地面積は減少傾向が続いており、特に田はここ 20 年間で 10 分の 1 にまで減っています。生きものには、田や畑といった農地環境を好んで生息する種が多く存在します。これまで普通に見られた生きものが、これからも普通に見られるためには、農地環境の保全が課題です。

また、田の減少によって、用水はその用途が失われており、場合によっては暗渠化され、消失しています。

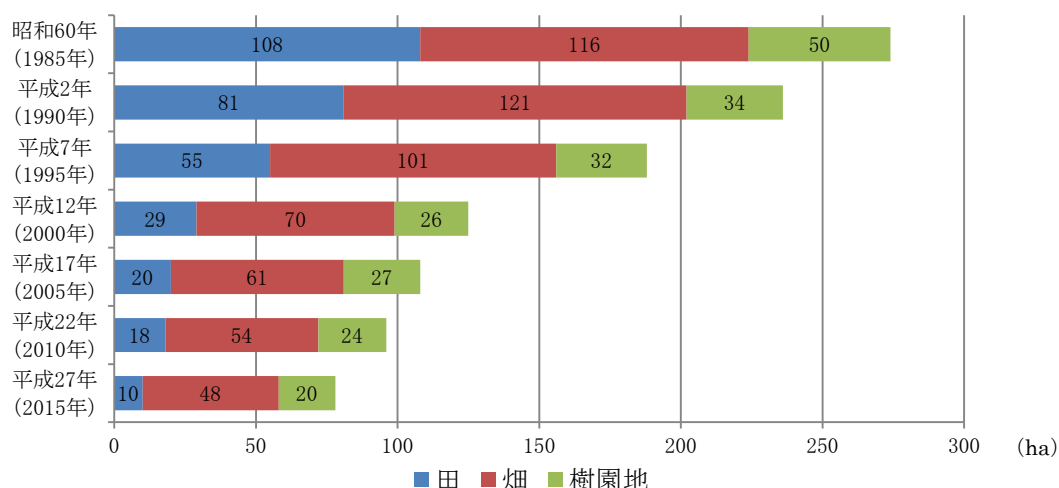


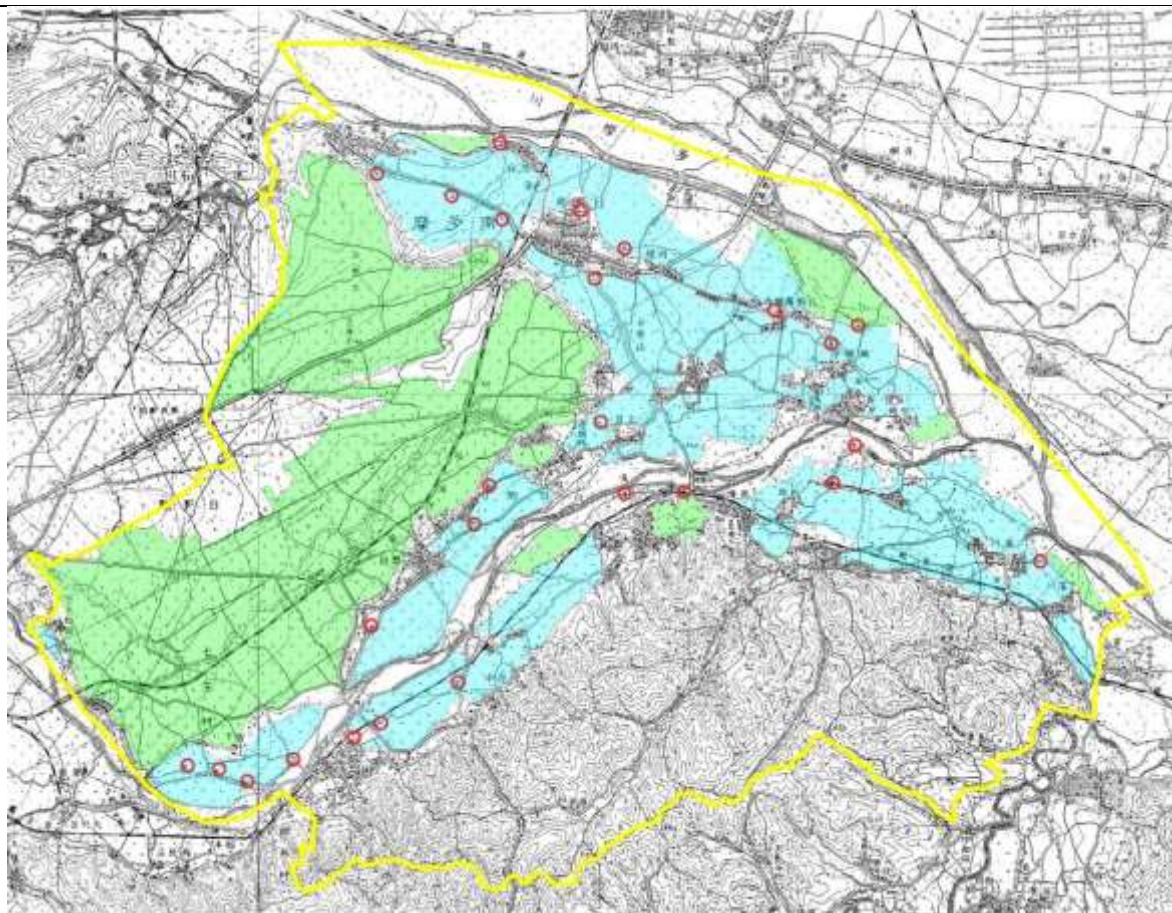
図 2.2-5 日野市の耕地面積

出典：農林業センサス

2.3 土地利用の変遷

日野市は 7000 年の定住の歴史があり、江戸時代には甲州街道の宿場町として栄えていました。およそ 100 年間で大きく変化した土地利用を、地形図と航空写真、土地利用の変化が確認できる資料を用いて、過去の状況と課題の整理を行いました。

【明治期～昭和初期】戦前の農村の風景を残す「宿場町」



■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布 ○ : 水車

昭和 4～12 年（1929～1937 年）の地形図

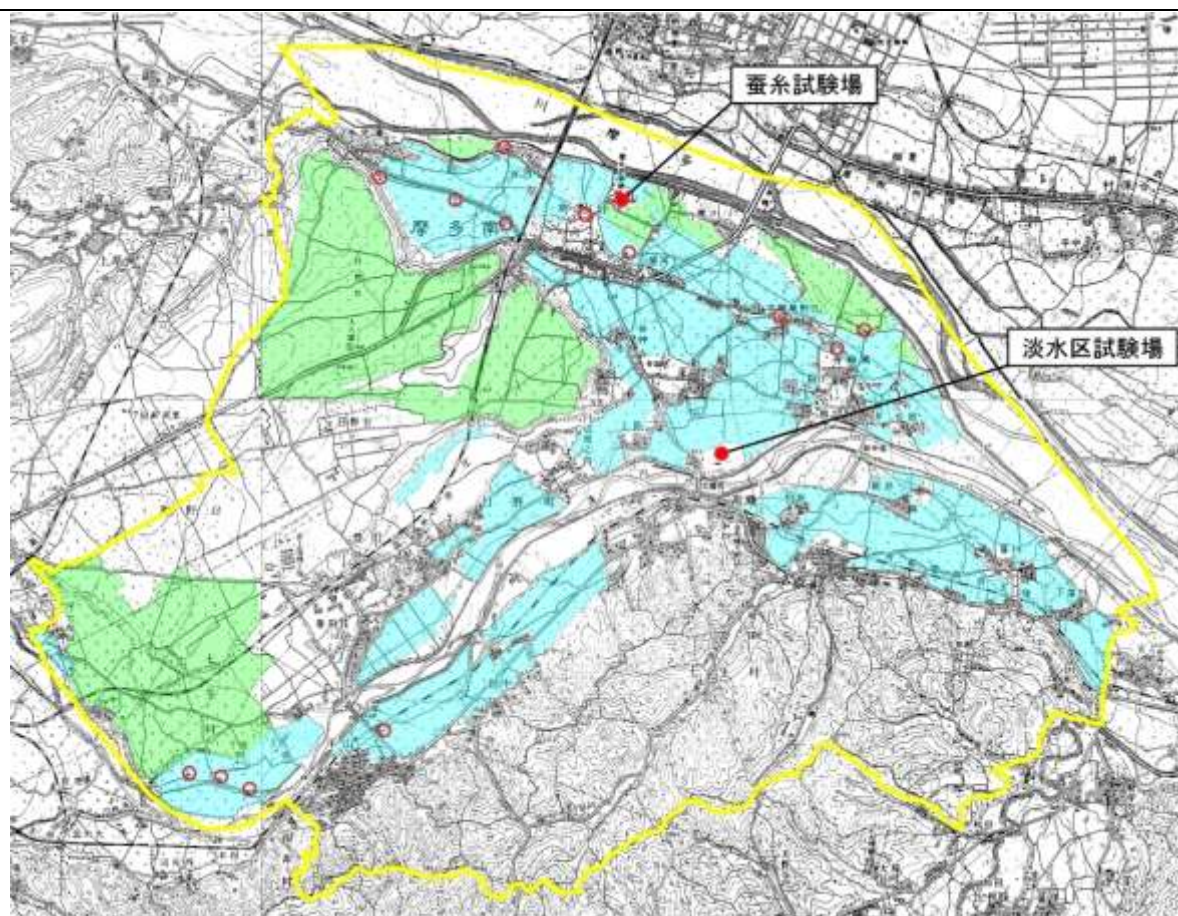
出典：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二) の地形図に一部追記

- ・日野の用水は 450 年の歴史があり、年間通水の水利権がある。
- ・川の産物としてアユは有名であり、江戸時代には「鮎は日野」と言われていた。
- ・明治 22 年（1889 年）に中央線が、大正 14 年（1925 年）には京王線が開通した。
- ・明治 34 年（1901 年）に日野町と桑田村が合併した。
- ・大正時代は米・繭ともに有数の産地となり、「多摩の米蔵」と呼ばれていた。

<状況>

- ・台地の上に集落がなく、周辺は多くが桑畑であった。
- ・低地は主に田として利用されていた。
 - ・用水の豊富な水を活かして、低地には水車が多く設置されていた。

【昭和中期】開発の始まり



■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布 ○ : 水車

昭和 23～29 年（1948～54 年）の地形図

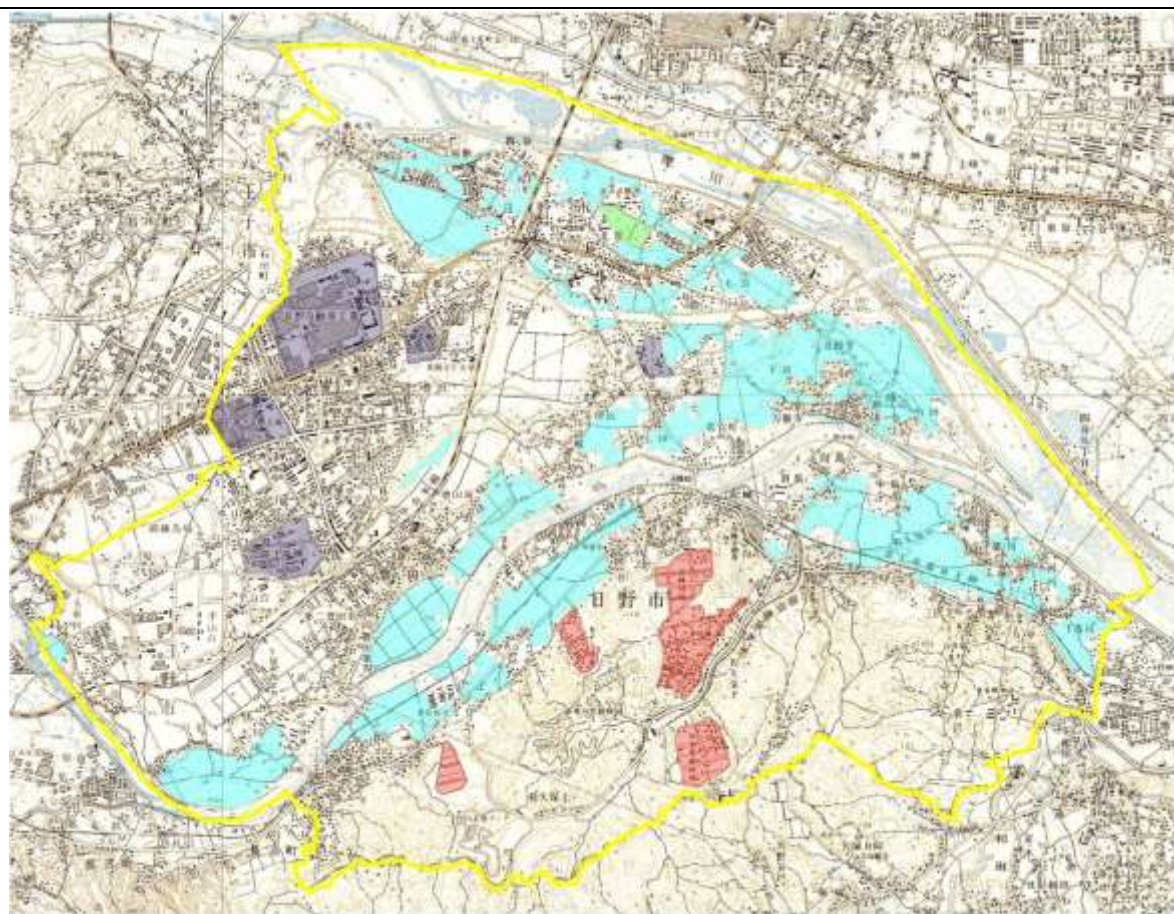
出典：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二) の地形図に一部追記

- ・昭和 3 年（1928 年）には仲田に「蚕糸試験場」ができた。
- ・昭和 28 年（1953 年）には淡水魚の養殖等の試験を行う「淡水区試験場」ができた。
- ・昭和 33 年（1958 年）に日野町と七生村が合併し、新しい日野町となった。

<状況>

- ・台地の桑畑が拓かれ、学校や病院、工場の進出が確認できる。
- ・桑畑の減少は確認されるが、蚕糸試験場もあり桑畑はまだ大面積に広がっている。
- ・低地の市街地について、目立った拡大は確認できない。
- ・良質な淡水が得られる場所であったため、淡水区試験場が設けられた。
- ・水車の数は減少している。

【昭和後期①】日野五社を代表とする「工業都市」



■：市街地化した多摩丘陵 ■：工場の位置 ■：桑畑の分布 ■：田の分布

昭和 41 年（1966 年）の地形図

出典：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二) の地形図に一部追記

- ・昭和 10 年前後にかけて、日野五社をはじめとする企業が日野市に進出した。
- ・昭和 38 年（1963 年）に市政が施行され「日野市」となった。
- ・昭和 35 年前後から多摩平団地をはじめ、京王平山住宅、百草・高幡台団地等が供給された。

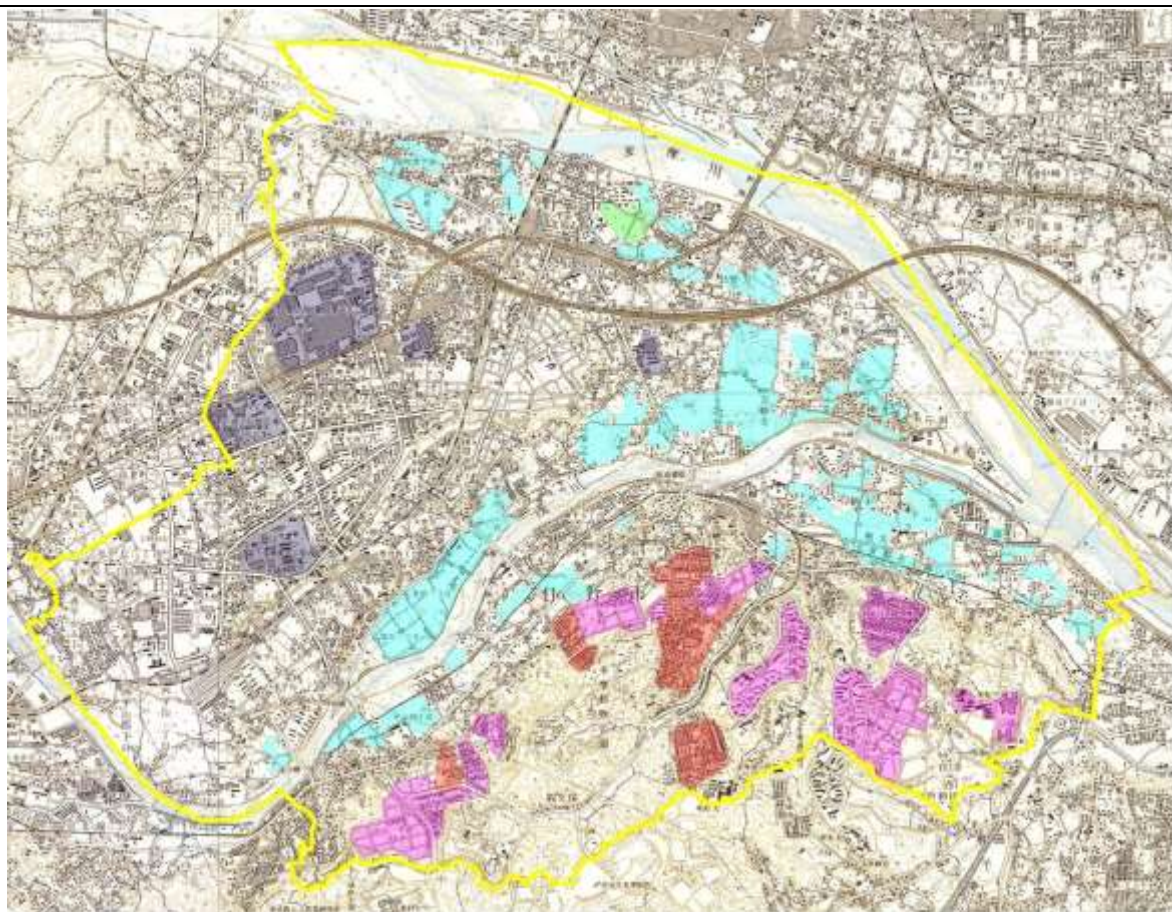
<状況>

- ・台地の上は工場が進出し、土地区画整理や団地の供給が行われた。
- ・多摩丘陵は団地や宅地の造成のために開発がはじまった。
- ・低地の田も市街地化が進んでいる。

→【課題】日野らしい農地景観の減少

- ・昭和 41 年の地形図では桑畑はわずかに確認できる限りである。
- ・団地や宅地の立地に伴い、人口が急激に増加した（図 2.1-2）。

【昭和後期②】市街地化の進行



■ : 1966 年時点で市街地化した多摩丘陵 ■ : 1975 年時点で市街地化した多摩丘陵
■ : 工場の位置 ■ : 桑畑の分布 ■ : 田の分布

昭和 50 年（1975 年）の地形図

出典：時系列地形図閲覧サイト「今昔マップ on the web」 ((C)谷 謙二) の地形図に一部追記

＜状況＞

- ・ 台地と低地で共に宅地化が進行している。
- ・ 多摩丘陵は団地や宅地造成のため、さらに開発が進んだ。
- ・ 田の減少が続いている。
- ・ 昭和 56 年には低地に細かく水路網が張り巡らされていた（図 2.2-2）。

【平成期】首都圏の「住宅都市」



平成 19 年（2007 年）の航空写真
出典：国土地理院の航空写真に一部追記

＜状況＞

- ・多摩丘陵は多摩動物公園周辺を除いて市街地化がさらに進行した。
→【課題】丘陵地の樹林環境減少
- ・多摩丘陵のみどりは分断化しつつある。
→【課題】丘陵地の分断化
- ・大きなみどりは崖線斜面、多摩丘陵、多摩川、浅川に残っている。
→【課題】みどりの軸となるエコロジカルネットワークの形成
- ・蚕糸試験場周辺は「仲田の森蚕糸公園」として緑が残されている（現在は一部、市民の森ふれあいホールとなっている）
- ・農地（田・畑）はわずかに残っている（図 2.2-5）。
→【課題】農地の保全
- ・用水路の延長は減少が続いている（表 2-1）。
→【課題】用水の保全・新たな利用方法の検討

2.4 日野市の生きもの

2.4.1 日野市全体の生物相

文献調査によって整理された分類群ごとの結果概要は以下に示すとおりである。水生生物として取り扱われている種は魚類と底生動物に分類している。確認された種の一覧表は、確認種一覧として資料編に掲載している。

表 2-2 文献調査で整理された分類群ごとの結果

分類群	確認種	重要種	特定外来生物
植物	155 科 1297 種	60 科 163 種	6 種
鳥類	19 目 55 科 217 種	16 目 38 科 111 種	4 種
哺乳類	6 目 11 科 19 種	2 目 2 科 2 種	1 種
両生類	2 目 5 科 10 種	2 目 4 科 8 種	1 種
爬虫類	2 目 7 科 14 種	2 目 7 科 13 種	-
昆虫類	19 目 250 科 1902 種	7 目 27 科 55 種	-
クモ類	1 目 29 科 146 種	1 目 7 科 8 種	-
魚類	7 目 12 科 39 種	5 目 7 科 14 種	4 種
底生動物	8 門 12 綱 27 目 89 科 202 種	4 綱 4 目 7 科 7 種	-

表 2-3 文献調査で確認した資料一覧

文献名・内容	地点名	発行年 調査年
「日野の昆虫ガイドブック」 日野市のチョウの分布一覧	日野市全域	1981
「新・日野の動物ガイドブック」 多摩動物公園の野鳥	多摩動物公園	1993
「2008 日野市環境情報センター年報」野生生物の調査報告書 1993	日野市全域	1993
「数え上げた浅川流域の野鳥 2」	長沼橋～多摩川合流	2006
モニタリングサイト 1000 里地調査 鳥類調査	多摩動物公園	2006
「2006 日野市環境情報センター年報」6 年間に日野市で見た鳥	日野市全域	2008
「2006 日野市環境情報センター年報」日野市高等植物目録 2007	日野市全域	2008
「緑の風は永遠に倉沢里山を愛する会 10 年の歩み」フィールド植生調査	倉沢地区	2010
平成 22～24 年度東豊田緑地保全地域(黒川清流公園)植物相調査結果	東豊田緑地保全地域	2012
東京都保全地域における生物多様性保全のための自然環境調査委託	東豊田緑地保全地域	2013
	日野東光寺緑地保全地域	2014
平成 26 年度日野市水生生物調査	市内 15 地点	2014
河川水辺の国勢調査	市内 11 地点	2005～2013

(1) 植物

丘陵

コナラ、イヌシデ、ムクノキ、エゴノキ、アズマネザサといった雑木林によくみられる植物が確認され、林床管理されている箇所や林縁部においてタマノカンアオイ、カタクリ、アマナ、キンランといった明るい林床に生育する重要種が確認されている。一部にモウソウチクが植栽されている竹林があり、シュロ、シロダモ、アオキといった耐陰性をもつ植物が確認されている。その他、アズマネザサ、ススキ、ノゲシ、タチツボスミレ等が生育する草地が確認されている。



タマノカンアオイ

崖線斜面

クヌギ、コナラ、イヌシデ、アズマネザサといった雑木林によくみられる植物が確認され、林床にはギンランやキンラン、キツネノカミソリといった明るい林床に生育する重要種が確認されている。また、崖線斜面には湧水起源の湿性草地があり、セキショウ、セリ、ヨシ等が生育するほか、ハンノキ、ノハナショウブ、カキランといった重要種が確認されている。乾性草地ではクサギ、アカメガシワといった木本やエノコログサ、メヒシバといった草本が生育している。特定外来生物は、湿り気のある環境を好むオオハンゴンソウが湿性草地で確認されている。



キンラン

河川

湿った立地に生育するヤナギ類やヨシ、ヒメガマ、乾いた立地に生育するススキ、チガヤが確認されており、高水敷から河道にかけて土壤水分に応じた植物が確認されている。そして、コゴメヤナギ、ミゾコウジュ、ミクリといった湿地や水辺に生育する重要種や、日当たりのよい草地や河原に生育するカワラナデシコ、カワラサイコといった重要種も確認されている。特定外来生物は、アレチウリ、オオカワデシャ、オオキンケイギクが確認されている。



カワデシャ



ミゾコウジュ

(2) 動物

丘陵・崖線斜面

鳥類は、樹林地では、キジバト、トビ、オオタカ、コゲラ、アオゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、カワラヒワや渡り途中のホトトギス、冬鳥のツグミ、シロハラ等が確認されている。また、多摩動物公園の池ではアオサギやマガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、コガモ等のカモ類が確認されている。

哺乳類は、アズマモグラ、アブラコウモリ、タヌキ、ハクビシンといった幅広い生息環境を利用する種が確認されている。

両生類・爬虫類は、アマガエルやトカゲ、カナヘビ、ヒバカリといった、草地や樹林を利用する種が確認されている。

昆虫類・クモ類は、クヌギやコナラからなる雑木林に生息するトビナナフシやクワガタムシ類、クロカナブン、カブトムシ、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、ウラナミアカシジミ、コシロシタバ、朽ち木を住みかや餌として利用するトビイロオオヒラタカメムシやルリオオキノコ、キマワリ、ナガゴマフカミキリ、湿地に生育するハンノキの葉を食べるハンノキハムシといった種であった。また、明るい湿地に生息するハラビロトンボ、草地や樹林の地表で生活するクマスズムシとヒラタマルゴミムシ、雑木林に生息するコシロシタバといった重要種も確認されている。



オオタカ



アオゲラ



タヌキ

河川

鳥類は、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ等の樹林性の鳥類が確認され、草地では、ホオジロ、カシラダカ等の草地性の鳥類が確認されている。水辺ではカルガモ、コガモ、バン、カワウ、アオサギ、タヒバリ等の水辺の鳥類が確認されている。

哺乳類は、アズマモグラやタヌキ、ハクビシン等の幅広い生息環境を利用する種、アカネズミやカヤネズミ等の草地環境を利用する種、ジネズミ、アライグマやイタチ等の水辺環境を利用する種が確認されている。

両生類・爬虫類は、アズマヒキガエルやウシガエル等の環境耐性の強い種に加えて、近年個体数が減少しつつあるツチガエルが確認されている。また、クサガメやアカミミ



カワセミ

ガメ等の水辺を利用する種が確認され、カナヘビ等の河原の草地を利用する種も確認されている。

昆虫類・クモ類について、確認されている種を大別すると、ヨシ、オギ、チガヤ等からなる草地、礫河原といった環境を指標する種のほかは、樹林に一般的にみられる（植物種や地形との関連性があまりない）種、草地で一般的にみられる種、水域に一般的にみられる種であった。草地に生息する種としては、チガヤやススキを餌とする重要種のショウリヨウバッタモドキとギンイチモンジセセリ、生息場所として湿地・水田やその周辺の草地を利用する傾向のあるキザハシオニグモ、ナガコガネグモ、ドヨウオニグモ、アシナガカニグモ、ヤハズハエトリといったクモ類、湿性草地に生息するコバネイナゴ、広い草地に生息するトノサマバッタが挙げられる。礫河原に生息する種としては、水際に生息するカワベコモリグモやイサゴコモリグモといったクモ類、湿った砂地を好むエリザハンミョウや重要種のエゾミズギワカメムシ、自然に成立した礫河原に生息する重要種のエゾエンマコオロギとカワラバッタが挙げられる。水域に生息する種としては、ハグロトンボやミヤマアカネといった流水性のトンボ類や止水性のトンボ類が挙げられる。



ショウリヨウバッタモドキ



ギンイチモンジセセリ

(3) 水生生物

崖線斜面（湧水）

魚類は、豊富な湧水流を反映して清冽な水を好むアブラハヤが確認されたが、このほか、住宅地に近い公園内を流れることから、コイやヒメダカ等、人為放流に起因すると考えられる種も確認されている。

底生動物は、豊富な湧水流を反映して、清冽な水を好むサワガニやオニヤンマ等が確認されている。隣接する樹林環境に依存する種として、羽化後、林縁部を主な生息空間として利用するゲンジボタルやオニヤンマ、暗い静水域を好むオオアメンボ、雨天時に林内を徘徊するサワガニ等が挙げられる。



黒川清流公園

低地（用水）

魚類は、元来大河川に生息し、繁殖期には用水を経て水田へも遡上するコイや、平瀬の砂礫底に多いオイカワ、清冽な小河川の淵に多いアブラハヤ、水生植物の繁茂する場所を好むタモロコ、泥底を好むドジョウ、平瀬の砂底を好むシマドジョウ、静水域を好む特定外来生物のオオクチバスといった様々な魚種が確認された。用水内の護岸や底質に着目すると、多自然護岸の環境（石積護岸、木杭、土羽、素掘り等）では、アブラハヤやタモロコ等の緩流部を好む魚種が多く、泥底を好むドジョウ、砂底を好むシマドジョウ、礫底を好むオイカワ等も確認されている。コンクリートの三面護岸の用水のうち、砂礫等が堆積し水深がある程度維持されている地点では、多自然護岸でみられた多くの魚種が確認されているが、堆積物はあるものの全体的に浅く、河床が単調な地点では、魚類は確認されていない。



新井地区の用水



向島親水路

底生動物は、水底の石面上やコンクリート上を匍匐するアメリカツノウズムシ、サンカクアタマウズムシ科の一種、コシダカヒメモノアガイ、チリメンカワニナ、Ecdyonurus（タニガワカゲロウ）属の一種、砂礫や砂泥のなかに潜っている Corbicula（シジミ）属の一種や Pisidium（マメシジミ）属の一種、ミズミミズ科の一種、Tanytarsus（ヒゲユスリカ）属の一種、エリユスリカ亜科の一種、瀬の石礫間で網状の巣をつくり、流下してくるデトリタス（有機残渣）を食べるウルマーシマトビケラや Cheumatopsyche（コガタシマトビケラ）属の一種、砂粒等で筒形の巣をつくる Hydroptila（ヒメトビケラ）属の一種、水生植物の

根際に多い *Neocaridina* (カワリヌマエビ) 属の一種、ヌカエビ、スジエビ、アメリカザリガニ、海域と行き来するモクズガニ等が確認されている。なお、三面護岸が施された用水においても、水底に砂礫や砂泥が堆積し、ササバモ等の沈水植物が生育する地点では、比較的多くの種が確認されている。

河川

魚類は、多摩川本川および、浅川、谷地川等の各支川の多くは自然河岸となっており、早瀬に生息するアユ、カジカ、早瀬から淵まで広く利用するウグイ、平瀬に生息するオイカワ、ニゴイ、カマツカ、シマドジョウ、ギバチ、コクチバス、淵や水際の水生植物帯に多いコイ、ギンブナ、モツゴ、タモロコ、ナマズ、ミナミメダカ、ジュズカケハゼ、湧水流に生息するホトケドジョウ、冬季に温排水等の高水温に依存するグッピー、国内外来種のおやニラミ等の多くの魚種が確認されている。一方、大部分がコンクリートで露出した支川の根川では、魚類は確認されていない。このほか、地形区分の詳細が不明な種として、重要種のヌマチチブ、特定外来生物のカダヤシ、ブルーギル、国外外来種のソードテールの一種やナイルティラピア等も確認されている。

底生動物は、河床や水際等を遊泳するフタバコカゲロウ、ウデマガリコカゲロウ、キベリマメゲンゴロウ、瀬の石礫間で網状の巣をつくり、流下してくるデトリタス（有機残渣）を食べる *Hydropsyche* (シマトビケラ) 属の一種やウルマシマトビケラ、石礫上を匍匐するヒラタドロムシ、水生植物の根際に多いヌカエビやスジエビ、海と行き来するモクズガニ等が確認されている。三面護岸が施された支川の根川では、アメリカツノウズムシやミズミミズ科の一種等が確認されたものの、自然河岸や自然河床の他地点に比べて、確認種数は少なかった。



多摩川



浅川

2.4.2 生息環境区分ごとの特徴

日野市には、台地や丘陵地、河川などの地形と、樹林地や耕作地、住宅地など地形に応じた植生や土地利用により、多様な生きものの生息場所となる多様な環境があります。このような環境を大きく分類すると、以下の 8 つの生息環境区分に分けることができます。

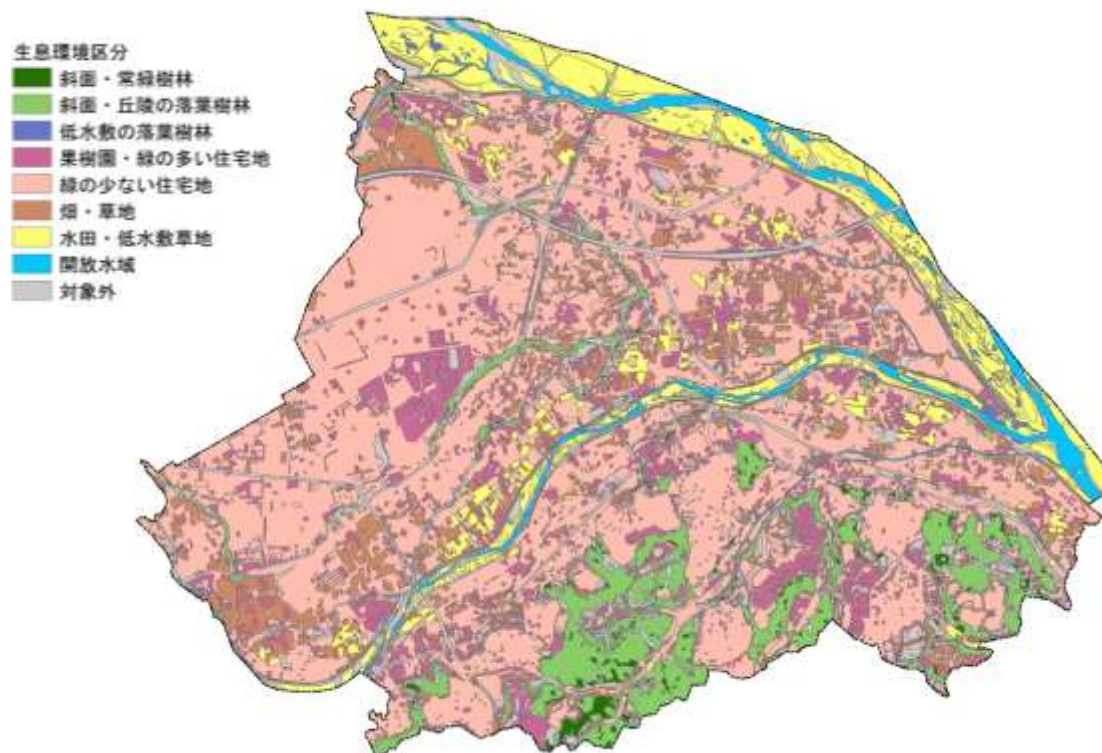


図 2.4-1 生息環境区分図

表 2-4 生息環境区分の分類

生息環境区分	面積 (ha)	特色
斜面・常緑樹林	24.17	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地に分布している。それほど面積は広くない。 ・主な植生は、自然林（シラカシ林）やアカマツ林、スギ林などで希少な樹林である。
斜面・丘陵の落葉樹林	201.94	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵部の斜面、台地の段丘崖に残っている。特に大規模な樹林は丘陵部にあり、段丘崖の樹林は、線状である。
低水敷の落葉樹林	8.89	<ul style="list-style-type: none"> ・河川敷に点在する樹林で、ニセアカシア林を主体としているが、ヤナギの低木林も含まれる。 ・面積的には、小さいが河川敷にあり、生物に重要な生息環境を提供している。
果樹園・緑の多い住宅地	294.5	<ul style="list-style-type: none"> ・農家の屋敷林や旧市街地の住宅地は良好な生物環境を提供している。丘陵地の住宅地は残存緑地のため、良好な生物の環境となっている。
緑の少ない住宅地	1327.36	<ul style="list-style-type: none"> ・丘陵地、台地、沖積低地でそれぞれ性格の異なる住宅地がみられる。
畑・草地	265.97	<ul style="list-style-type: none"> ・台地部並びに低地部におよそ 100ha 弱の畑が残っている。これらの環境は、草地性の環境に生息する生物の生息環境となっており、多様な草地環境に生育する動物群が生息している。
水田・低水敷草地	219.97	<ul style="list-style-type: none"> ・水田は、崖線の湧水や水路とともに低地の環境の骨格を形成している。 ・これらは連結することにより、まとまった生態系を形成しているが、近年、湧水、水田、水路による一体的であった湿地の環境は、区画整理事業によって急激に減少し、分断され、孤立している。
開放水域	63.11	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川、浅川の水面である。これらは、水鳥を中心に他の動物にも多くの恩恵をもたらしている。

引用:都市のエコロジカルネットワークⅡ(財団法人 都市緑化技術開発機構 平成 18 年)

(1) 生息環境区分 1：斜面・常緑樹林

■概要

崖線斜面、丘陵地に分布しており、面積はそれほど広くない。主な植生は、自然林（シラカシ林）やアカマツ林、スギ林等で希少な樹林である。

■生息環境区分 1 の分布

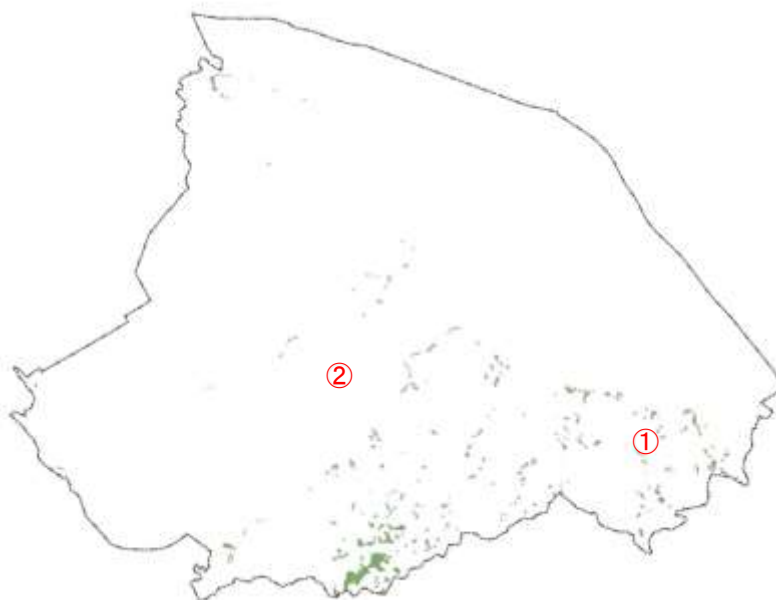
①百草八幡神社の社叢林

丘陵地に位置するスダジイ、シラカシ、アラカシ等が生育する常緑樹林（鎮守の森）



②多摩平の森のモミ林

歴史的な背景を持つ貴重な環境



■生物多様性の保全に関する課題

希少な樹林の保全	スダジイの巨木を中心とする発達した樹林環境は日野市内にごくわずかに残るのみで、周辺には住宅地がせまり、樹林環境が断片化・孤立化している。発達した樹林環境は日野市に残る貴重な環境であるため、適切に保全する必要がある。
民有緑地の積極的な活用	「百草のシイノキ群」等、自然に近いみどりを保全するためには、民有緑地の公有地化や管理協定、トラストの積極的な活用等、行政と市民相互の連携・協力が求められる。

(2) 生息環境区分 2：斜面・丘陵の落葉樹林

■概要

丘陵部の斜面、台地の段丘崖に残っている。特に大規模な樹林は丘陵部にあり、段丘崖の樹林は線状である。

■生息環境区分 2 の分布

①都立七生公園付近

多摩動物公園に隣接する丘陵地の都市公園



②黒川清流公園

東豊田緑地保全地域の一部であり、湧水由来の用水が流れている



③真堂が谷戸

ホタルの生育する谷戸環境。周辺は雑木林として管理されている



④東光寺緑地保全地域

東京都保全地域に指定されている

⑤小沢緑地

丘陵地の代表的な湧水と日野市唯一の滝がある

⑥高幡不動尊金剛寺

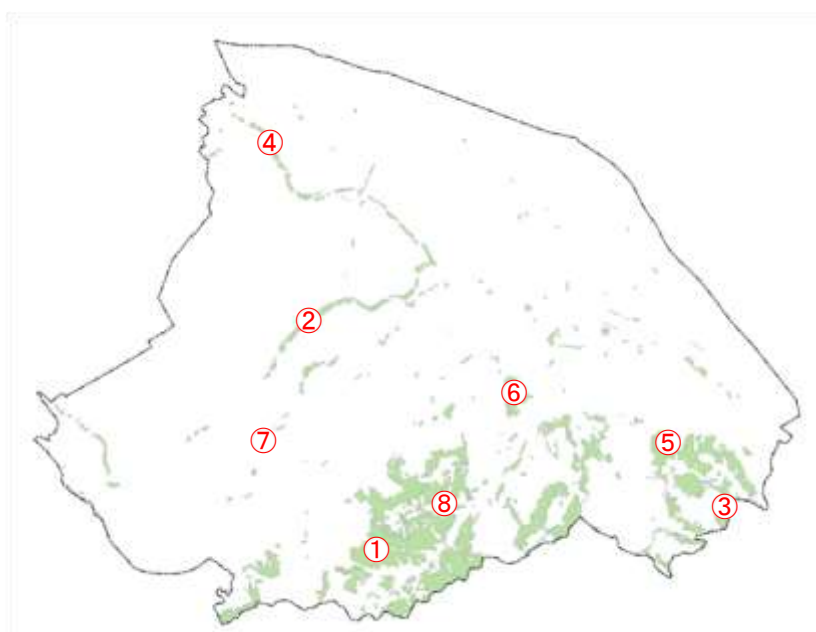
日野市天然記念物の「愛宕山の自生針葉樹林」や「金剛寺のサンシュユ」がある

⑦中央図書館

市民の関心の高い湧水があり、子供たちの遊び場となっている

⑧多摩動物公園

都立多摩丘陵自然公園の一部であり、園内の大部分は雑木林として管理されている



■生物多様性の保全に関する課題

二次的自然環境の減少・劣化	丘陵地の生きものの多様性を保つには、継続的に人の手を入れることで雑木林や草地等、二次的な植生を維持することが必要である。
宅地化や相続によるみどりの減少	丘陵や崖線の樹林は日野市に残された重要なみどりである。この環境を次世代に残すためには、宅地化や相続によるみどりの減少を防ぐ必要がある。
重要種の保全	豊かな自然環境の残る真堂が谷戸では、調査で多くの重要種が確認された。これらの種が今後も健全にこの場所で生育するためには、種ごとの適切な管理と保全計画が必要である。
湧水の水量確保	湧水の水量は、季節や降水量によって変化するが、かん養域の宅地化や土地利用の変化により減少し、枯渇することが考えられるため、長期的に推移を見ながら湧水の保全を計る必要がある。

(3) 生息環境区分 3：低水敷の落葉樹林

■概要

河川敷に点在する樹林で、ニセアカシア林を主体としているが、ヤナギの低木林も含まれる。面積的には、小さいが河川敷にあり、生きものに重要な生息環境を提供している。

■生息環境区分 3 の分布

①多摩川河川敷の樹林

多摩川河川敷に成立したハリエンジュ、オニグルミ、ヤナギ類からなる落葉広葉樹林



■生物多様性の保全に関する課題

河川敷の樹林化	河川敷に点在する樹木に外来種のハリエンジュがある。ハリエンジュは拡散することで、在来の植物に悪影響を及ぼす恐れがある。生態系を保全するためには防除を行う必要がある。
礫河原の劣化	樹林や乾性草地の拡大によって、礫河原とそこに特徴的に生育・生息する生きものが減少していくおそれがある。特に、シナダレスズメガヤの生育量が増えると、冠水時に砂が堆積し、礫河原が砂の多い河原へ改変される可能性がある。

(4) 生息環境区分 4：果樹園・緑の多い住宅地

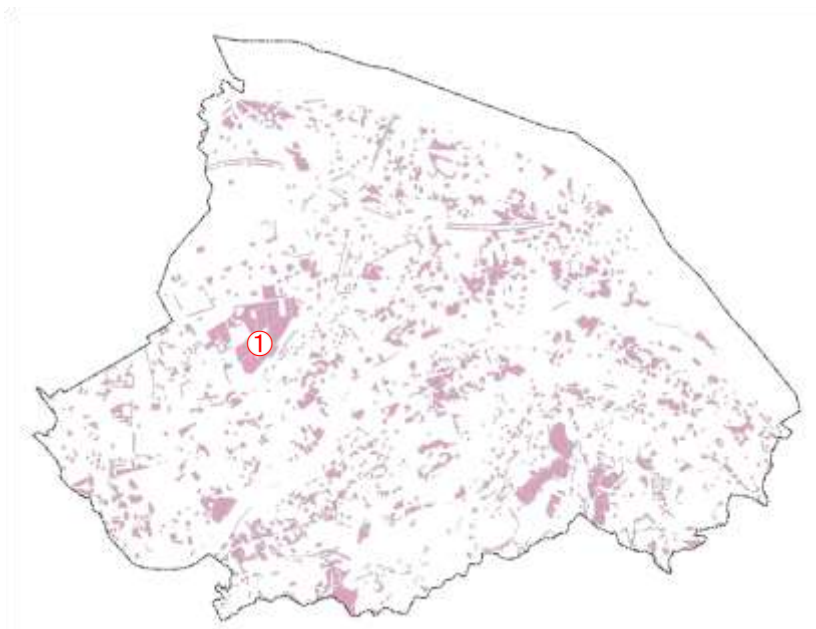
■概要

農家の屋敷林や旧市街地の住宅地やである丘陵地の住宅地は良好な生息環境を提供している。

■生息環境区分 4 の分布

①多摩平の森の団地植栽

台地上の住宅地周辺の植栽樹林群や芝生草地。下草が低く刈り込まれ、草丈の高い草本類は少ない一方、園芸植物や外来植物が多い



■生物多様性の保全に関する課題

単調な緑地管理の改善	芝生をはじめとする草地は一様に低く刈り取られることで、植栽環境が単純になっており、生育・生息する生きものが少ない。生きものへ配慮する観点からは、画一的な管理ではなく、そこに生息する生きものの生態に合わせた緑地管理が必要である。
民有地の緑の保全	巨樹・巨木、屋敷林、檜ぐね、社寺林等は民有地における歴史的価値のあるみどりであり、市民とともに保全や活用の方策について検討することが望まれる。

(5) 生息環境区分 5：緑の少ない住宅地

■概要

丘陵地、台地、沖積低地でそれぞれ性格の異なる住宅地がみられる。

■生息環境区分 5 の分布

①潤徳小学校ビオトープと向島親水路

浅川から取水した向島用水を利用した学校ビオトープの環境。湿生植物が生育し、水辺に生息するカワセミやカルガモが見られる。

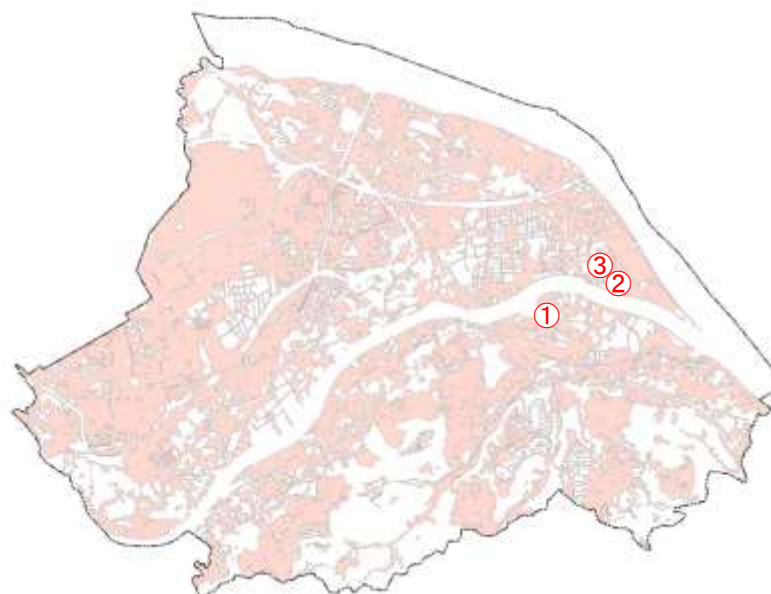


②石田寺

日野市天然記念物の「石田寺のカヤ」がある

③とうかん森

日野市天然記念物の「とうかん森」がある



■生物多様性の保全に関する課題

用水の維持管理の担い手	稲作の衰退と共に、用水を維持管理する主体が代わってきている。近隣住民を中心とした用水守制度が活用され、ボランティアによる維持管理が行われているが、日ごろ用水とかかわりのない市民も用水との結びつきを強め、市民全体で用水を守る体制が望まれる。
環境用水の将来的な利用	農業としての用途が失われた用水は環境用水として利用されているが、安全面や衛生面での課題も残っている。環境用水としての利用価値を高める等、将来的に用水を利用する方法を考える必要がある。

(6) 生息環境区分 6：畑・草地

■概要

台地部並びに低地部におよそ 100ha 弱の畑が残っている。これらの環境は草地性の環境に生息する生きものの生息環境となっており、多様な草地環境に動物群が生息している。

■生息環境区分 6 の分布

①東光寺上地区の畑

台地上の耕作地周辺の草地環境。近くに七ツ塚ファーマーズセンターがあり、日野の農業の発信拠点となっている。

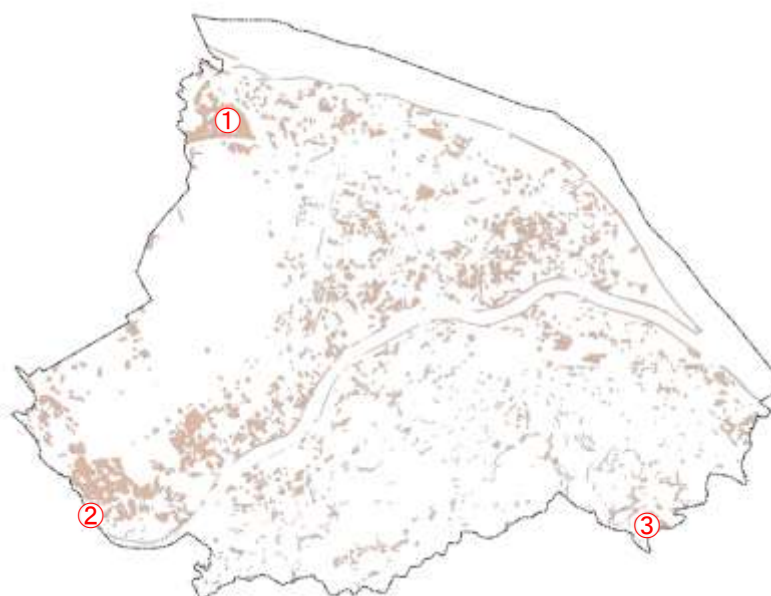


②サイカチ堰

歴史的な背景を持つ貴重な環境

③倉沢地区

農業体験農園が運営されている



■生物多様性の保全に関する課題

農地の減少・断片化	農業は産業の場であるだけではなく、古くから親しまれてきた日野市の風景を形成し、動植物の生息・生育空間でもある。生産の場としてだけでなく、多面的な利活用によって、農地減少をくい止めることが望まれる。
農業者の高齢化や後継者不足	相続の発生や農業従事者の高齢化を背景に農地は減少を続けている。農地保全の取組み、農業に従事する人材の育成により、農と共存するまちの形成が望まれる。

(7) 生息環境区分 7：水田・低水敷草地

■概要

水田は、崖線の湧水や水路とともに低地の環境の国家鶴を形成している。これらは連結することにより、まとまった生態系を形成しているが、近年は急激に減少し、分断され、孤立している。

■生息環境区分 7 の分布

①多摩川河川敷の高茎草地

日野市内で最も大きい面積で広がる草地環境。



②新井の田んぼ

日野市に残る、用水を利用した昔ながらの水田地帯。



③多摩大橋下流部右岸

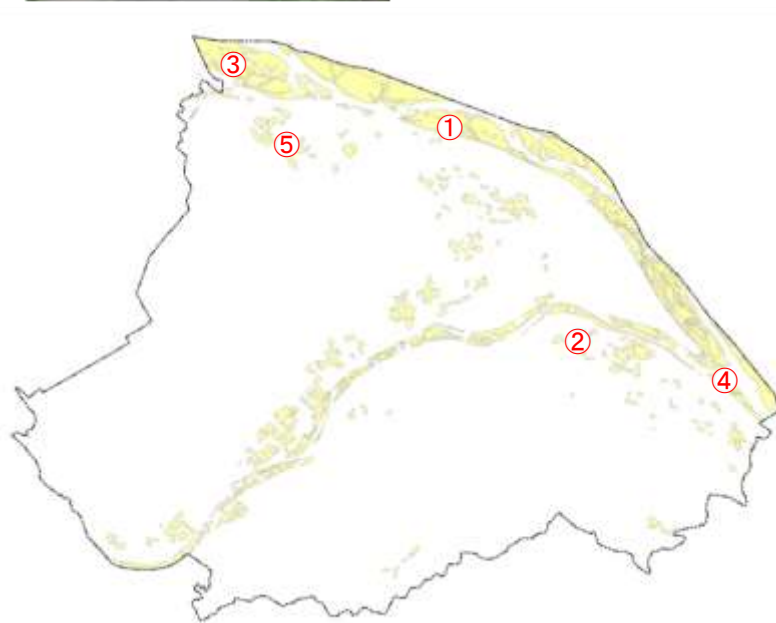
国土交通省の「生態系保持空間」に指定

④多摩川、浅川合流点

国土交通省の「生態系保持空間」に指定

⑤よそう森公園

田んぼの学校。土堀の田んぼが残されている



■生物多様性の保全に関する課題

外来植物の繁茂	多摩川河川敷では多くの外来植物の繁茂が確認された。特定外来種をはじめ、シナダレスズメガヤの繁茂等、河川生態系に悪影響を及ぼすことが懸念される事象があり、早急な対策が求められている。
水田の減少	昭和 60 年に 108ha あった水田は、現在では 20ha 未満となっている。水田の減少によって、水田を生息環境とする種の減少が懸念される。防災、環境、食育等、農地の多面的機能の再認識と合わせて減少を防ぐ必要がある。

(8) 生息環境区分 8：開放水面

■概要

多摩川、浅川の水面である。これらは、水鳥を中心に他の動物にも多くの恩恵をもたらしている。

■生息環境区分 8 の分布

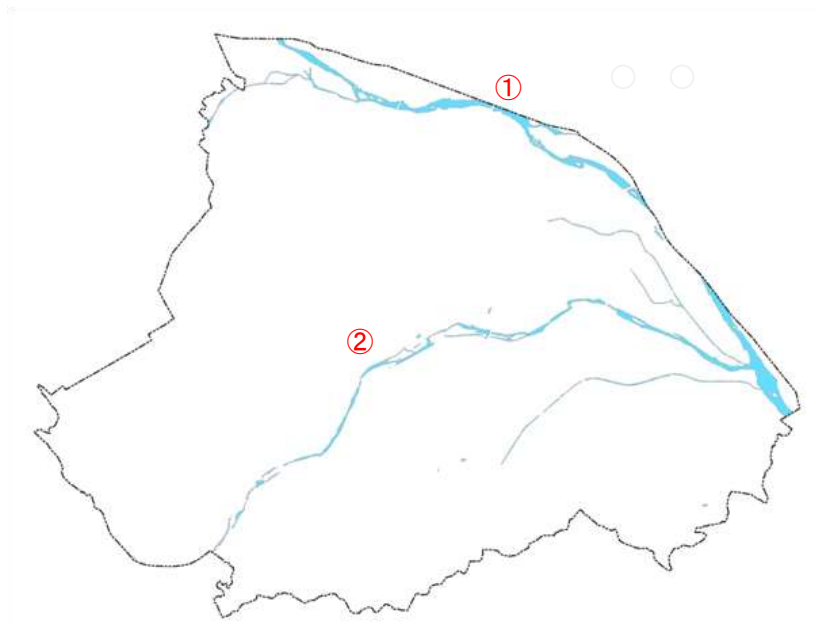
①多摩川

奥多摩から東京湾に注ぐ大河川であり、日野市は中流域にあたる



②浅川

八王子市、日野市を流れ多摩川に注ぐ身近な河川。



■生物多様性の保全に関する課題

程久保川での自然環境調査	丘陵地を流れる程久保川では文献調査が確認できなかった。そのため、源流部一帯も含めて調査を実施し、魚類相・底生動物相をより詳細に把握することが望まれる。
水源となる樹林の保全	崖線斜面は水の供給源として、魚類にとって非常に重要な場所である。崖線斜面の斜面林を保全することで、湧水量を維持し、下流側である多摩川水系一帯の生物多様性の維持・向上に努めることが重要である。
人為放流による悪影響の普及啓発	住宅地に近い用水では、人為放流に起因すると考えられる種が確認された。人為放流は在来種へ悪影響を与え、生態系をかく乱する恐れがあるため、禁止するように普及啓発を行う必要がある。
魚類のすみやすい環境整備	魚類の多様性をより向上させるためには、河川から用水全域にわたる移動障害（堰や落差工）の位置や用水の形状を網羅的に把握し、必要に応じて用水の構造を改善することが望まれる。
抽水植物帯の創出	抽水植物はトンボ類の羽化場所として機能することや、堆積物の流下防止、水質浄化、底生動物の繁殖環境、増水時の避難場所等、生物多様性を維持・向上させるための様々な機能を備えているため、場所に応じて生育場所を設置することが望まれる

3. 基本的事項

3.1 位置づけ

日野市生物多様性地域戦略は、関連する国や都の関連法令や計画との整合を図りつつ、日野市の多分野にわたる既存計画に対して、生物多様性に関する共通の視点・考え方を浸透させ、部門横断的に連携・調整しながら、施策・取組みを推進していく計画です。

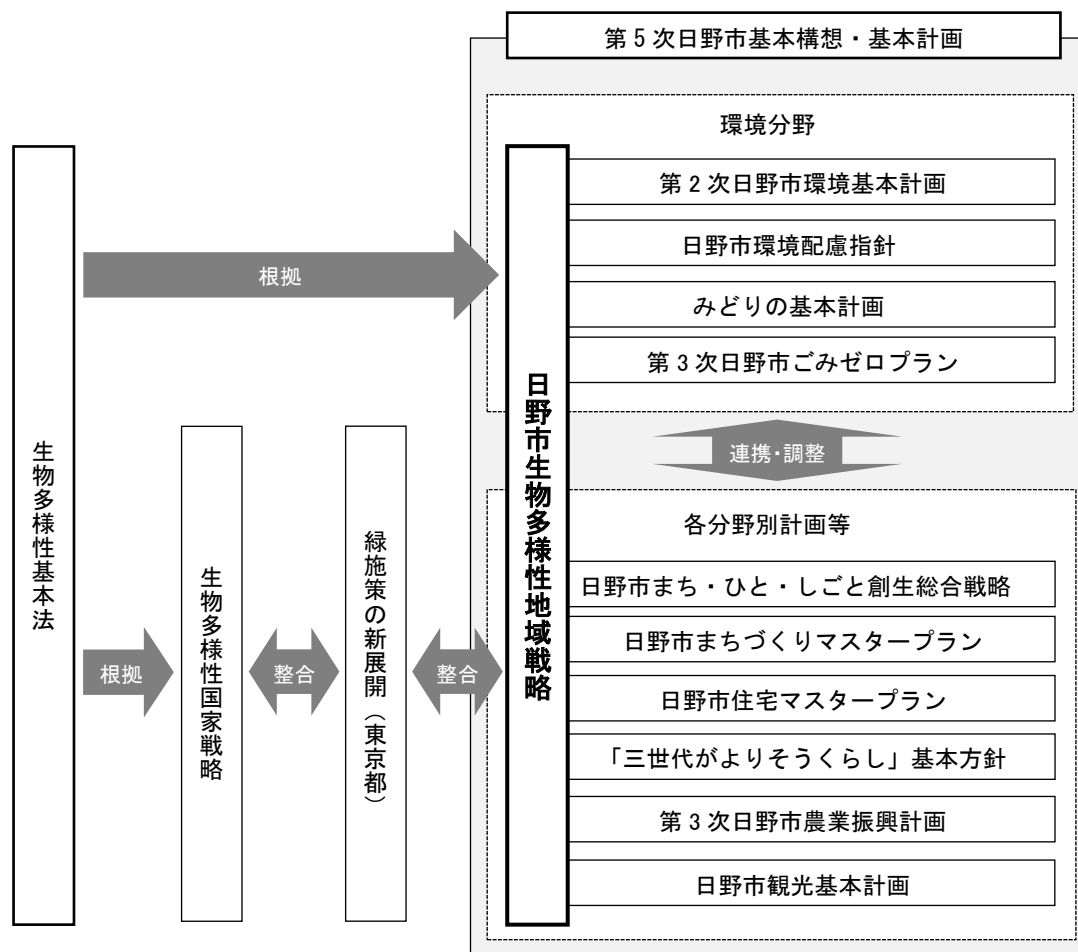


図 3.1-1 日野市生物多様性地域戦略の位置づけ

3.2 対象区域

日野市全域。

3.3 計画期間（案）

日野市生物多様性地域戦略の計画期間とその位置づけは以下のとおりです。

3.3.1 短期目標

日野市の生物多様性にとって緊急な行動を実施する

目標年：平成 32 年（2020 年）

期間設定の位置づけ：地域戦略策定後の 3 年間であり、日野市の生物多様性にとって早急な対応が望まれる取組みや、先導的に行うことで市民に対する普及啓発効果の大きい取組みを実行する期間とします。平成 32 年は愛知目標の短期目標年であり、東京オリンピック・パラリンピックの開催年でもあるため、日本の生物多様性に対して国内外から注目が集まる年です。日野市においても、各主体に生物多様性の普及を図り、身近な課題として生物多様性の取組みを実行している状況が望ましいと考えます。

また、平成 32 年は日野市の多くの既存計画が見直しを予定しているため、既存計画に生物多様性の現状を反映し、それぞれの計画と連携しながら行動を実施します。

【参考】愛知目標における短期目標

目標年：平成 32 年（2020 年）まで

目標：生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施

3.3.2 中期目標

生物多様性の主流化に向けて全ての主体が活動を実践する

目標年：平成 42 年（2030 年）

期間設定の位置づけ：短期目標年から 10 年後を区切りとして、生物多様性の主流化に向けてすべての主体が活動を実践する期間とします。日野市基本構想・基本計画をはじめとする、多くの既存計画が見直しを行う時期に合わせて、地域戦略も 5 年目に PDCA サイクルを回しながら見直しを図ります。

3.3.3 長期目標

「自然と共生する日野市」が実現する

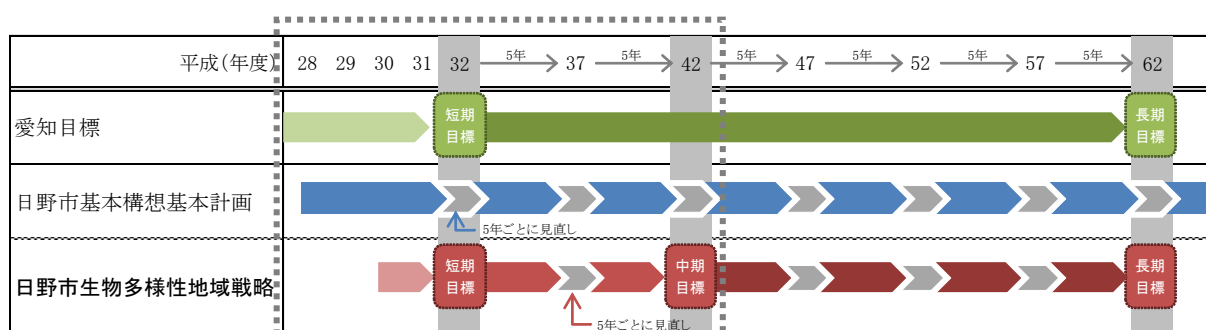
目標年：平成 62 年（2050 年）

期間設定の位置づけ：「自然と共生する日野市」が実現するための期間とします。愛知目標の長期目標年に合わせ、5 年ごとの見直しを継続しながら、日野市の理想とする将来像を目指します。

【参考】愛知目標における長期目標

目標年：平成 62 年（2050 年）

目標：「自然と共生する世界」の実現



分野	計画名称	平成(年度)																				
		25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42			
第5次日野市基本構想基本計画					●																	
環境分野	日野市生物多様性地域戦略						●			●										●		
	第2次日野市環境基本計画																					
	第3次日野市ごみゼロプラン						●															
各分野別計画	日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略			●																		
	日野市まちづくりマスタープラン																					
	日野市住宅マスタープラン			●																		
	新！ひのっ子すくすくプラン			●																		
	第3次日野市農業振興計画		●																			

短期目標の計画期間の設定
第5次日野市基本構想基本計画や
第2次日野市環境基本計画などの
期間と合わせて設定

図 3.3-1 地域戦略と既存計画の計画期間の関係

3.4 基本理念

日野市生物多様性地域戦略における将来的な理想像として、基本理念を以下のとおり定めました。

水とみどりを継承し、人と多様な生きものが共に暮らせるまち

3.5 基本方針

基本理念に沿った施策の体系化のために、3つの基本方針があります。その内容は以下のとおりです。

・人々の関心を高める

身近に自然を感じることでできる体験を通して、多くの人に日野市の生物多様性を伝え、関心を高めます。日野市の豊かな生物多様性を市民の共通認識とすることで、みんなで力を合わせて生物多様性を支える機運を高め、活動の活性化を図ります。

・人と自然の関わりをつくる

生物多様性には里山のように、人が積極的に自然と関わることで生み出される価値があります。そのような人と自然が共生することで得られる自然の恵みを未来に継承し、持続可能性に考慮した人と自然の関わりを形成します。

・日野らしい自然を守り育てる

崖線に残されたみどり、丘陵地の雑木林、低地に張り巡らされた用水路、多摩川と浅川の河川環境が育む動植物等、日野市の生物多様性は、特徴的な地形が由来となって生み出されています。そのような日野らしい自然環境を残すために、今ある生物多様性を守り育てます。

4. 生物多様性地域戦略の取組み

4.1 取組みの体系（案）

日野市生物多様性地域戦略の取組みの体系は以下のとおりです。



4.2 日野市生物多様性地域戦略の取組みの内容について（案）

人々の関心を高める

目標：1. 身近な自然体験からみんなが生物多様性を理解している

取組みの方向：1. 自然体験活動の推進

（1）取組みの内容

川遊びや農作業といった身近な自然体験や環境学習を通じて、日野市の豊かな生物多様性を理解している市民を育てます

（2）現況・課題

- 高度経済成長期の急激な人口増加によって、多くの自然環境が開発により失われました
- 現在も丘陵地や農地の宅地化、用水の暗渠化など、生きものに触れ合える身近な自然環境は減少しています
- また、公園の整備は進む一方、河川や樹林などの自然環境は安全性の問題もあり、子どもにとって遊びにくい場所となっています
- 日野市の豊かな生物多様性が忘れられないためにも、身近な自然体験や環境学習によって自然を理解する機会づくりが求められます
- ただし、学校教育の現場では豊富な自然体験を経験している教員が少なく、生物多様性を伝えることのできる人材が不足しています

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 日野市の生物多様性を活かした環境学習の場を提供します
- 子供が安全に自然と触れ合える場を提供します
- 環境学習の研修会を企画・実施し、指導者となる地域住民や教員を育成します
- 地域の特徴を活かした環境学習プログラムを検討・提案します
- 生物多様性と自然の恵みを学習できる場として、農業体験を推進します
- 日常で生態系や生物多様性を実感できる場として、ビオトープづくりを推進します

<市民・市民活動団体>

- 日野市の生物多様性を活かした環境学習に参加・協力します
- 自然体験や環境学習に参加し、生物多様性についての理解を深めます
- 環境学習に活用できる生物多様性の情報収集・提供に努めます
- 指導者や参加者として環境教育の場に関わり、活動に協力します
- 市の取り組みに対し、より環境学習の効果が高まるよう助言や提言を行います
- 地域の公園、農地、ビオトープなどを、自然体験や環境学習の場として活用します

<事業者>

- 環境学習の場に参加し、生物多様性についての理解を深めます
- CSR 活動として従業員への環境学習を実施します
- 事業地内の自然環境を保全し、市民の利活用が可能になるよう一般開放に努めます

<国・東京都・関係自治体>

- 東京都の環境学習リーダー養成講座等により、環境学習を担う人材を育成します

<教育・研究機関>

- 講師派遣や情報提供等により、市民や学校教員等への環境教育に協力します
- 教員の生物多様性に係る知識を深め、環境教育を実践できる人材を増やします
- 小中学校は環境学習に係る授業を充実させます

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 指導者（教員）のための環境学習研修会の実施 地域住民などの人材活用のための指導員登録制度の構築 東京都環境学習リーダー養成講座の活用 学校支援ボランティア推進協議会事業の活用 （仮称）日野市生きもの検定の実施 	○	○			○
→環境学習の企画・制度づくり【担当部署：環境保全課・生涯学習課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 公園施設を活用した自然体験活動の推進 公園施設や水辺などで確認できる生きものの名前や見どころなどの看板やQRコードの設置 地域ぐるみで子供と自然の見回り活動 公園や緑地などに生息する生きもの紹介 	○	○	○		○
→自然体験活動の推進【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 安全に配慮した子供が裸足で遊べる環境づくり 学校などでのビオトープづくりの推進 	○	○			○
→安全に配慮した環境整備、学校ビオトープの整備【担当部署：緑と清流課】					
◎日野市の生物多様性を活用した環境学習プログラムの作成	○	○		○	○
<ul style="list-style-type: none"> 学校で生物多様性を学ぶための教材づくり 一年を通じた環境学習の機会・情報の提供 地区ごとの自然を活かした学習環境の展開 安全な自然体験や遊びのためのルールや注意事項の周知 小学校での出前授業の実施 小学校での動物の飼育 学校教育での水辺の生きものや川の恵みに関する学習の推進 学校での農作業体験学習 日野産農作物を学校給食で提供する 食育による生物多様性の普及 地域の自然や伝統文化に関する課外活動の推進 	○	○		○	○
→学校や地域における環境学習					
【担当部署：地域協働課・庶務課・学校課・生涯学習課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 農作物の栽培ができる農業体験農園の整備 農作物栽培の指導員の配置 	○	○			
→体験農園の整備【担当部署：都市農業振興課】					
◎生きものガイドとのウォーキングイベントの実施	○	○	○		○
<ul style="list-style-type: none"> 自然を感じることでできるウォーキングコースの整備 	○			○	
→生物多様性を感じる健康増進イベントの推進【担当課：文化スポーツ課・健康課】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画**【第 5 次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】**

- ・ 203 共に生き、互いに育てあうまち（子育て課・庶務課・学校課）
- ・ 204 一人ひとりが輝く主体的でたくましいひのっ子育て（子育て課）
- ・ 207 次代をつくる「特色ある学校づくり」と学校、家庭、地域・社会が一体となった「つながりによる教育」の推進（学校課）
- ・ 208 自立・協働・創造に向けた「21 世紀を切りひらく力」の育成（学校課）
- ・ 401 学びと学びあいによる「ひとづくり」「まちづくり」（生涯学習課）
- ・ 502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）
- ・ 704 次世代につなぐ日野の農業（都市農業振興課）

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・ 自然度の高いみどりの保全
- ・ 水辺に親しむ空間づくり
- ・ 協働による水辺の保全・活用

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・ 3-3-1 次代を担う人材の地域での育成

【第 3 次日野市農業振興計画】

- ・ (11) 地域で農業を支える仕組みづくりの推進
- ・ (12) 農とふれあう市民交流を深めよう

【日野市観光基本計画】

- ・ (1) 観光農業の推進

【第 2 次日野市学校教育基本構想】

- ・ 自然や歴史、文化・芸術、スポーツ、ものづくりなどに触れる豊かな体験

【日野市生涯学習推進基本構想・基本計画 日野まなびあいプラン】

- ・ いつでも どこでも 誰でも 学べる環境整備
- ・ 教えあう 交流する仕組み・居場所づくり

【日野市スポーツ推進計画】

- ・ 歩きたくなるまちづくりの推進

人々の関心を高める

目標：2. みんなが生物多様性に興味を持ち、大切にする意識を共有している

取組みの方向：2. 生物多様性の情報共有・発信

(6) 取組みの内容

カワセミハウスを活動の拠点として、生物多様性に関する情報発信や各種イベントを開催します

(7) 現況・課題

- 日野市には生物多様性に関連する団体が多数ありますが、活動の拠点となり、イベントを開催できる場は少ない状況です
- 生きものの生息・生育や生態に関する情報は多くが団体や個人で管理されており、広く市民に周知されている状態ではありません
- 生物多様性に関連する情報を一元管理し、必要に応じて活用できる仕組みづくりが必要です
- カワセミハウスは平成29年4月にオープンした環境情報センターと地区センターが一体となった複合施設で、潤いある豊かな暮らしを創造する拠点、施設を訪れる人々による新たなコミュニティづくりの拠点を目指しています
- カワセミハウスは「カワセミエコミュージアム」として、市内各地のフィールドで活躍する市民団体をつなぐネットワークをめざしています。

<エコミュージアムとは>

エコミュージアムとは「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられています。（出典「エコミュージアムについて」法政大学教授 馬場憲一）

日野市は都心近くにありながら、湧水や用水などの水辺の環境と多摩丘陵をはじめとする緑に恵まれており、「緑と清流のまち」と言われています。私たちは、長い時間をかけて自然と共生しながら生活することで、歴史や文化を育んできました。これらの自然と人の繋がりをまるごと守り残していくことで、日野市全体をエコミュージアムとして豊かな暮らしを守りたいと考えています。

(8) 各主体の役割

<日野市>

- 日野市の自然に関連する資料の展示や講座を開催し、市民が日野市の自然に親しみや興味を持つ機会を提供します
- 環境に関する情報を収集・整理・分析し、市民や事業者などと共有します
- 市民の環境への活動に対し、場所や情報の提供などの支援を行います
- 市民ボランティアの活用などを通じて、多様な主体がカワセミハウスの運営や活用に関わることができるような体制づくりを行います
- カワセミハウスを、環境活動団体をつなぐネットワークの中心として活用します
- 日野市全体がエコミュージアムになることを目指します

<市民・市民活動団体>

- 自然や生きものの調査、学習の場や市民活動の拠点としてカワセミハウスを活用します
- 活動内容や成果を積極的に発信します
- 市民や市民活動団体の持つ生きものの情報を公開・提供します

<事業者>

- 事業所の生物多様性に係る取組み情報を市民に向けて発信します
- 市や市民による生物多様性の取組みに参加し、協力します

<教育・研究機関>

- 生物多様性に関する情報や調査・研究成果を提供し、発信します
- 生きものの情報等の整理・発信の仕組みづくりを支援します

(9) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> ホームページやニュースレターによる生物多様性に関する情報発信 生物多様性に関するイベント・展示の実施 カワセミハウスをエコミュージアムの拠点として活用 多摩動物公園での生物多様性に関する教育・普及活動の展開 生物多様性緑地の評価制度の導入 ボランティア活動に対する表彰制度の構築 浅川アユまっりの継続的な実施 自然体験活動の場や機会に関する情報発信 親世代への生物多様性の普及 市役所職員への生物多様性の考え方の浸透 	○	○		○	○
→生物多様性に関する普及啓発【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性に関する情報の蓄積と一元管理 自然や環境についての相談窓口の開設 多様な主体間での情報交換・交流の仕組みづくり カワセミハウス運営ボランティアの組織づくり 	○	○		○	○
→生物多様性を普及させるための体制づくり【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> カワセミハウスと学校の教育活動との連携 カワセミハウスでの課外授業 	○				○
→学校活動でカワセミハウスの利用【担当部署：庶務課・学校課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 都心に向けての日野産農作物の PR 推進 日野野菜の試食イベントの実施 日野産江戸前アユの PR アユ遡上の取組み発信 	○	○		○	
→地産地消の推進・日野市の特産品の発信【担当部署：都市農業振興課・観光振興課】					

◎：重点プロジェクト

(10) 市が推進する既存の関連計画

【第 5 次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・ 403 「ふるさと日野」の醸成（地域の魅力や価値の再発見）（生涯学習課・郷土資料館）
- ・ 501 地球温暖化から生物多様性への展開（環境保全課）

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・ みどりに関する普及啓発

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・ 3-3-2 地域で学ぶ、学びあいの環境づくり

【第 2 次日野市学校教育基本構想】

- ・ 自然や歴史、文化・芸術、スポーツ、ものづくりなどに触れる豊かな体験

人と自然の関わりをつくる

目標：3. 生物多様性を通じて様々な主体のつながりが生まれている

取組みの方向：3. 多様な主体が連携できる体制構築

(1) 取組みの内容

生物多様性を守り育むために、関連する主体がそれぞれの強みを活かして連携できる体制を構築します

(2) 現況・課題

- 多摩丘陵自然公園の一部である多摩動物公園は、多摩丘陵の豊かな自然に囲まれた動物園であり、市内外から多くの人を訪れる集客力の高い施設です。高い専門性を持ったスタッフにより、野生生物の保全や教育普及活動も積極的に行われています
- 日野市には多くの工場事業所が立地しており、関連する事業者は市民や市と連携する取組みを求めています
- 河川や丘陵などの、自然環境の広域的ネットワークを構築するためには、周辺自治体や国、東京都などの関係者とも連携した取組みが不可欠です

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 多摩丘陵や三浦丘陵のように広域な緑地や河川流域については、関連自治体や国、東京都と連携し、保全や生物多様性の啓発活動を図るよう努めます
- 市民、市民活動団体、事業者との連携にあたり、各主体の役割分担を明確にしたうえで、協力の依頼や、活動の支援施策、仕組みづくりの検討などを推進します
- 多摩動物公園と連携し、日野市の生きものの保全や調査研究を行います

<市民・市民活動団体>

- 様々な主体とともに地域の自然への関わり方を議論し、課題解決に取り組めます
- 市や事業者との連携を図り、多様な主体の取組みに参加するよう努めます

<事業者>

- 事業所内の緑を地域の自然と一体にとらえ、エコロジカルネットワークに配慮した CSR 活動を検討し、地域住民と連携して活動展開を広げます

<国・東京都・関係自治体>

- 都立七生公園など市民の生活に身近な自然を活かして環境保全活動などを企画します
- 丘陵地や河川などの広域な自然環境については、関係自治体間で協力して保全を行うよう努めます
- 市や市民、事業者と連携し、日野市の生きものの保全や調査研究を行います
- 多摩丘陵自然公園をみどりの軸として、多摩丘陵のみどりを周辺自治体と連携して保全します
- 生物多様性の普及啓発活動を多様な主体と連携して推進します

<教育・研究機関>

- 市と連携し、生物多様性の保全に必要な情報や調査・研究成果を提供します

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
◎多様な主体による連絡会・情報交換会の開催	○	○	○		○
・ 市民同士で自主的・主体的に活動できるような環境づくり	○	○			
・ 学校・家庭・地域の連携を強化し、地域力を向上	○	○			○
・ 各地域における課題の把握と役割分担の明確化、共有	○	○	○		○
・ エリアによる用水の維持管理の分担など体制検討	○	○			
・ 多摩動物公園と連携した生きものの保全および教育普及活動	○	○		○	○
・ 工場緑地における、市民参加の生きものの調査の実施	○	○	○		
→市内の多様な主体による連携の促進					
【担当部署：企画経営課・地域協働課・環境保全課・生涯学習課】					
・ 広域の自治体や環境団体と連携した、環境保全活動の実施	○	○	○	○	
・ 広域な緑地（多摩丘陵・三浦丘陵）や河川流域の保全管理の方針を近隣の関係自治体や国、東京都と協議	○	○		○	○
→広域的な行政間の連携【担当部署：企画経営課・環境保全課・カワセミハウス】					
・ 生物多様性の保全のための基金の設立	○				
・ 保全活動への寄付金募集と資金援助のマッチング	○				
・ 身近な環境保全ボランティア活動に対する支援	○	○			
→生物多様性を保全するための活動支援【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画

【第 5 次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・ 101 地域の多様な主体の連携推進と諸力融合による価値創造の枠組み構築（企画経営課・地域戦略室・選挙管理委員会事務局）
- ・ 102 魅力ある新しい地域コミュニティづくり（地域協働課）
- ・ 405 市民による市民のための公民館の充実（中央公民館）
- ・ 502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）
- ・ 701 生活環境の維持・向上と将来を見据えたコンパクトなまちづくり（都市計画課・区画整理課）

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・ 自然度の高いみどりの保全
- ・ 協働によるみどりの保全・創出
- ・ 協働による水辺の保全・活用

【日野市まち・ひと・しごと創生総合戦略】

- ・ 3-2-1 様々な主体の参画と連携による地域の活力の創造（地域・世代・活動組織）

【第 3 次日野市農業振興計画】

- ・ （4）農・商・工・観光及び産・学・官・民・金の連携

【日野市観光基本計画】

- ・ （2）市民・企業・行政の交流

【日野市生涯学習推進基本構想・基本計画 日野まなびあいプラン】

- ・ 教えあう 交流する仕組み・居場所づくり
- ・ 自己実現・社会還元の間や情報提供

人と自然の関わりをつくる

目標：4. 水とみどりを次の世代に継承するための活動が市民主体で推進されている

取組みの方向：4. 市民活動による生物多様性の推進

(1) 取組みの内容

生物多様性豊かな環境を市民が主体的に調査・管理することで、魅力ある日野市を将来の世代に引き継ぎます

(2) 現況・課題

- 市内の雑木林では維持管理するボランティアの高齢化や人手不足により、十分に手が行き届かなくなりつつあります
- 水田の減少により、用水が本来の用途で使われなくなっているほか、用水の維持管理を行う担い手も不足しています
- 日野市の生物多様性の状況は今もなお変化しており、定期的に生きものの現状を調べ、生物多様性の実態を把握する仕組みが必要です
- 市が管理を行っている用水は、日野市水生生物調査で詳細な情報が把握されており、市の自然環境を示す大切な情報となっています
- 河川などの国や都が管理する場所は、日野市内にありながら、市や市民の要望で自然の保全が行えていません

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 雑木林や用水路など、人の手が入ることによって保たれてきた環境を維持するために、住民参加の管理体制を構築します
- 公園、緑地、水路等の維持管理については、地域、学校、農業組合などとの公民協働の体制を構築します
- 維持管理活動により多くの市民が参加できるよう、講習会等による知識や技術習得や、機材調達などの支援を行います
- 自然環境や生物多様性に配慮した農業に対し、支援を行います
- 子どもたちが生業としての農業に触れる機会を提供します
- 水田や用水の多面的機能を市民に伝えます
- 日野市の動植物について、「ひのいきもの探し隊」などを活用し、市民参加の調査を実施し、現況を把握します
- 水辺環境について、水質や生きもの調査を継続的に実施し、現況を把握します
- 生きもの調査によって得られた情報は HP 等に公開し、市民と共有します
- 市内の雑木林を山菜採りや遊びの場として市民が利用できるよう、仕組みづくりやルールづくりを行います

<市民・市民活動団体>

- 地域の自然について、市と協働の体制をつくり、維持管理活動に積極的に参加・協力します
- 民有地の自然環境について、市や事業者と協力体制をつくり、維持管理活動に積極的に参加・協力します
- 近隣の雑木林を山菜採りや遊びの場として利用できるよう、日野市と共同で仕組みづくりやルールづくりを行い、積極的に利用します
- 「ひのいきもの探し隊」などの取組みに参加し、情報提供や普及活動を行います
- 生きもの調査や観察会などのイベントに参加します
- 新しい人材を活動団体に呼び込み、次代を担うメンバーや活動リーダーを育成します

<事業者>

- CSR 活動の一環として、地域の自然の維持管理に参加します
- CSR 活動の一環として、「ひのいきもの探し隊」の生きもの調査に参加し、協力します

<国・東京都・関係自治体>

- 東京都自然環境保全地域や都立公園では、モニタリング調査の結果に基づいて、市や市民と連携して維持管理を実施します
- 多摩川や多摩丘陵など行政界をまたいで存在する環境について、必要なモニタリング調査等を相互に協力・連携して行います

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 多様な生きものを育む雑木林の維持管理 生きものがすめる環境として用水路の維持管理 維持管理の方法についての講習会やイベントなどの実施 市民参加で行う公有地の維持管理活動の推進 地域の自然環境を維持管理する組織づくり 既存のボランティアの体制を活用した、ビオトープや公園の管理体制の構築 雑木林や用水管理のボランティア登録制度の構築 緑の維持管理を担う人材育成を目指す雑木林ボランティア講習会の継続 水辺のゴミ拾い活動などの維持管理に関わるイベントなどの実施 市民が自由に活動できる「市民の森」づくり 	○	○	○	○	
→市民の維持管理活動による生物多様性の保全					
【担当部署：環境保全課・緑と清流課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 多摩川、浅川での生きものの調査の企画・実施 水鳥観察など季節ごとの観察会や生きものの調査の実施 日野市水生生物調査の継続 ひのいきもの探し隊の運営 生きもののマップの作成 ◎生きものの調査ガイドの作成 生きもの探しイベントの実施 調査結果の蓄積、インターネットを活用した調査結果の公開 	○	○	○	○	○
→市民協働による生物多様性の実態把握【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・403「ふるさと日野」の醸成（地域の魅力や価値の再発見）（生涯学習課・郷土資料館）
- ・502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・まちなかのみどりの創出・保全
- ・協働によるみどりの保全・創出
- ・健全な水循環の構築
- ・水質の保全
- ・協働による水辺の保全・活用

人と自然の関わりをつくる

目標：5. 日野の魅力を活かすための土地利用が推進されている

取組みの方向：5. 自然と人が支え合うまちづくり

(1) 取組みの内容

用水や水田、崖線緑地などの日野らしい自然環境と、そのような自然により育まれた文化や歴史、産業がバランスよく保たれるまちづくりを行います

(2) 現況・課題

- 豊かな水の恩恵を受け、昔は多摩の米蔵と呼ばれるほど稲作が盛んに行われていましたが、今では水田は減少の一途をたどっています
- 昭和初期は台地一面に桑畑が広がっていましたが、今ではほとんどが失われています
- 丘陵地は高度経済成長期の人口増加を理由として、大規模に宅地開発が行われ、現在も土地区画整理事業により宅地化が進行しています
- 日野らしい自然環境や景観を将来に残すためには、魅力ある日野であり続けるための生物多様性に配慮した土地利用の推進が必要です

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 水とみどりの景観が身近に残るように、水田や畑などの農地保全を行います
- 日野の特産品栽培を推奨し、近郊農業である利点を活かして PR を図ります
- 市内の低地に張り巡らされた用水を観光資源として活用するため、生物多様性に配慮した環境整備を行います
- 丘陵地での新たな宅地開発を制限し、既存の市街地の再開発や効率化によりまちを持続的に発展させます
- 地域の自然や文化などの魅力を広く発信することで、多くの人が訪れ、交流が生まれる地域を目指します

<市民・市民活動団体>

- 農地や水田、雑木林といった日野らしい身近な自然を健全に保つための維持管理活動に協力します
- 地元で採れた農作物を積極的に利用し、地産地消に努めます
- 地域の自然や文化を子どもたちへ伝え、受け継ぐように努めます
- エコツーリズムやグリーンツーリズムに参加し、また市内外問わず多くの人が里地里山の価値を体験できるようなイベントを推進します

<事業者>

- 市のこれまでの土地利用に配慮した緑地計画を行い、周辺とのエコロジカルネットワーク構築に努めます

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> • 用水周辺の親水化、環境整備 • 樋ぐねや生垣の保全推進 • 事業所の在来種緑化推進 • 生きもの豊かな「用水モデル地区」や「ワンドモデル地区」の設定 • 崖線斜面や丘陵地の樹林保全 • 多自然川づくりの推進 	○				
→緑地や水辺の保全活動の推進【担当部署：環境保全課・緑と清流課】					
<ul style="list-style-type: none"> • 丘陵地の開発抑制 • 地下への雨水浸透促進 • 市街地整備に併せた緑化の推進 • 市有施設の緑化 • 空き地の緑化 • 街路樹などの植栽に地域で特色を持たせた、町なかの生きものの生息環境づくり • 魅力ある水辺空間の創出 • 丘陵地公園内の散策路整備 • 用水の生物多様性に配慮した観光資源化 • 市民が誇れる資源である「水と緑」に着目した回遊ルートの整備 	○			○	
→生物多様性を守り・育むためのまちづくり					
【担当部署：都市計画課・区画整理課・道路課・観光振興課】					
<ul style="list-style-type: none"> • 土地区画整理事業における環境影響評価の実施 • 土地区画整理事業における、斜面緑地や湧水等の公園化による保全 • 用水路整備における開渠化、もしくは底打ちを行わない工法の採用 • 染み出し可能な護岸構造による用水路整備 • 在来種や郷土種を採用した公園整備 	○				
→生物多様性に配慮した土地区画整理事業【担当部署：区画整理課】					
<ul style="list-style-type: none"> • 市民農園の推進 • 市民体験農地の整備 	○				
→都市と農業が共存する農地利用【担当部署：都市農業振興課】					
<ul style="list-style-type: none"> • 用水における小水力発電の利活用 	○		○		
→再生エネルギーの活用【担当部署：環境保全課】					

(5) 市が推進する既存の関連計画**【第 5 次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】**

- ・ 501 地球温暖化から生物多様性への展開（環境保全課）
- ・ 502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）
- ・ 701 生活環境の維持・向上と将来を見据えたコンパクトなまちづくり（都市計画課・区画整理課）
- ・ 704 次世代につなぐ日野の農業（都市農業振興課）
- ・ 705 地域の魅力の再認識と認知度を高めるプロモーション展開（シティセールス推進課・観光振興課・新選組のふるさと歴史館・郷土資料館）

【第 2 次日野市環境基本計画】

- ・ 自然度の高いみどりの保全
- ・ 農地の保全と活用
- ・ 健全な水循環の構築

【第 3 次日野市農業振興計画】

- ・ (1) 都市農地の多面的機能を活かし農地を守るまちづくりを進めよう
- ・ (8) 地産地消を推進しよう

【日野市観光基本計画】

- ・ (1) 歴史と自然を活かした観光まちづくり ②自然観光資源の保全による持続的活用

【日野市住宅マスタープラン】

- ・ 2-4 農ある住環境の形成
- ・ 2-7 地産地消の創出や緑化推進等、低炭素な住宅市街地の形成

日野らしい自然を守り育てる

目標：6. 日野らしい生物多様性が守られている

取組みの方向：6. 自然環境の保全

(1) 取組みの内容

多様な生きものが生息・生育する水とみどりの環境を将来にわたって守るために、必要な保全策を実施します

(2) 現況・課題

- 日野市では「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部） 東京都レッドリスト 2010 年版」に掲載されている希少な動植物が生息・生育しています。
- 宅地化により丘陵地の樹林が減少しており、保全策が求められています
- まとまった草地環境は河川にのみ残されている状況であり、草地環境に生息する生きものすめる環境の多くが失われています
- 水田が減少し、用水は本来の用途で利用されなくなりました。用水にすむ生きものを守るためには、用水の新しい利活用や水田保全が必要です
- 日野市には東京の名湧水 57 選にも選ばれた中央図書館下湧水、黒川清流公園湧水、小沢緑地湧水を含め、数多くの湧水があります

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 日野市の希少種の生息・繁殖状況を把握し、必要な保全対策を図ります
- 地域の自然における生きものの生育・生息状況などの情報収集を行い、市民に提供することで、各主体が自発的に活動できるように促します
- 緑地や希少種の保全のために、私有地の公有化や所有者との協定などを通じた保全の取り組みを推進します
- 田んぼのオーナー制度など、水田の維持管理に農業者以外の人を取り込むような、仕組みをつくります
- 様々な主体と共同し、湧水を生きものの生息環境として維持管理し、保全に取り組みます
- 生物多様性の恵みを持続的に享受するため、適切な利用方法の普及啓発を行います

<市民・市民活動団体>

- ゴミや排水を減らすなど、生きものの生息・生育地に負荷を与えないように、自然を大切に生活することを心がけます
- 水田などの農地活用を通じて、里地里山の保全管理に参加します
- 生きものの採取は最低限に抑え、希少な生きものは採取せずに保全を図ります
- 地域の自然における生きものの利用状況や管理状況などの情報収集・提供を行います。
- 雑木林や緑地の維持管理につながるイベントの実施など、普及啓発活動に協力します。

<事業者>

- 地域のみどりと繋がりが生まれるように、事業所内の緑地を維持管理します

<国・東京都・関係自治体>

- 都が管理する緑地や公園において、市と共同で草地環境の保全や生きものの調査などを実施し、生物多様性を高める活動を推進します
- 多摩川や浅川の河川整備において、地域の自然や文化に配慮した整備事業を実施し、生物多様性を高める河川管理を推進します
- 市や市民と共同で、多摩丘陵自然公園の保全管理を行います

<教育・研究機関>

- 日野市の生きものや自然環境を調査対象として、生物多様性がより高まるような保全対策やまちづくりについての提言を行います
- 市や市民と共同で、生きもの調査や保全管理を行います

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 多摩丘陵の緑地における、哺乳類・猛禽類が生息するための広域な自然の保全 	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> 希少種が生息・生育する環境の情報収集と保全 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 多摩動物園における野生生物の生息域外保全・生息域内保全の実施 	○			○	
<ul style="list-style-type: none"> 希少植物の盗掘対策の実施 	○			○	
<ul style="list-style-type: none"> 樹林の保全 	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> 緑地保全地域の保全 	○			○	
◎民有緑地の公有化の促進	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 浅川の水量確保（調査・検討） 	○			○	○
<ul style="list-style-type: none"> 日野市の生物多様性や歴史に配慮した近自然型川づくり 	○	○		○	○
<ul style="list-style-type: none"> 生きものの生息場所としての用水の環境整備 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 黒川清流公園などで、日野市の原風景的な自然の復元 	○	○		○	○
<ul style="list-style-type: none"> 湧水の生きもののモニタリングの実施 	○	○			○
<ul style="list-style-type: none"> 湧水の維持管理 	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> 自然や生きものとの適切な関わり方・利用についての普及啓発 	○	○		○	○
<ul style="list-style-type: none"> 文化財として指定されている天然記念物の保護と周知啓発 	○				
→日野らしい環境の保全、生きものの生息環境の保全					
【担当部署：環境保全課・緑と清流課・生涯学習課・カワセミハウス】					
<ul style="list-style-type: none"> 水田の保全 	○				
<ul style="list-style-type: none"> 農業の担い手の育成 	○	○			
→農地の保全【担当部署：都市計画課・農業振興課・環境保全課】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・501 地球温暖化から生物多様性への展開（環境保全課）
- ・502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）
- ・704 次世代につなぐ日野の農業（都市農業振興課）

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・環境に配慮した農業の推進

【第3次日野市農業振興計画】

- ・（2）日野の貴重な財産である水田・用水を市民と農業者で守っていこう

日野らしい自然を守り育てる**目標：7. 生物多様性の豊かな環境が育まれている****取組みの方向：7. 生きものを育む環境の創出と質の向上****(1) 取組みの内容**

生きものが生息・生育できる新たな環境を創出するとともに、既存の水とみどりの環境を生きもの目線で見直し、生きものの生息・生育の場としての質を高めます

(2) 現況・課題

- 丘陵地は宅地化が進行し、みどりの分断が発生しています
- 河川は重要なみどりの軸であり、周辺環境は河川とのつながりを意識した整備を行うことで、生きものの往来を生み出すことができます
- 公園は利用者の目線で常にきれいな状態が維持されていますが、生きものの生態に配慮した維持管理手法を加えることで、既存緑地でも生物多様性の向上が期待できます

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 市内の各地区における特性や資源を整理し、人と自然が持続的に共存できる地域づくりの方向性を決め、共有します
- 市民や市民活動団体による生きもののすめる環境づくりを支援します
- 地域の孤立した緑地を近隣の緑地につなげ、緑のネットワーク化を推進します

<市民・市民活動団体>

- 耕作放棄地の水田復元やビオトープ化などを実施し、生きものの生息環境としての質の向上に努めます
- 自宅の庭や身近な緑地を、生きものが利用できる環境となるように維持管理を行います
- 市が実施する会議や議論の場に参加し、さまざまな主体と連携しながら、地域づくりの方向性を議論します

<事業者>

- 事業所内のみどりを保全、創出し、生物多様性を高めるような維持管理に努めます。

<国・東京都・関係自治体>

- 多摩川や浅川などの流域の自治体や東京都と連携し、流域全体で生きものの生息環境が保全されるように、関係自治体の取組みを支援します
- 都立七生公園や東豊田緑地保全地域、東光寺緑地保全地域などにおいて、生きものの目線を取り入れた環境整備や維持管理を行い、生きものの生息環境としての質を高めます
- 谷地川などの流域の自治体と連携し、流域全体で生きものの生息環境が保全されるような整備計画を策定し、関係自治体の取組みを支援します

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
<ul style="list-style-type: none"> 生きものを育む草地環境の創出 生きものの生息・生育空間としての公園整備 生きもののネットワークを意識した環境整備 ◎「バタフライガーデン」やなど、公園ごとに生物多様性に関するテーマや特徴を持たせた環境整備 河川での生きものの繁殖場所である「瀬」の創出 	○	○		○	
→生きものの生息環境の創出【担当部署：緑と清流課】					
<ul style="list-style-type: none"> ホタルやカワセミなどの観察エリアの整備 日野市の過去の自然を再現や希少植物の保護のための植物園の新設 	○	○	○		
→生物多様性を普及するための環境整備【担当部署：緑と清流課】					
<ul style="list-style-type: none"> 生きものの生息・生育に配慮した維持管理作業 民有地の緑化に対する支援活動 	○	○		○	
→生きもの育む維持管理方法の企画【担当部署：環境保全課・緑と清流課】					
<ul style="list-style-type: none"> 環境保全型農業の推進 耕作放棄地のビオトープ化 水田の冬季湛水による生物多様性の向上 	○	○			
→農地の生物多様性向上【担当部署：都市農業振興課・環境保全課】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・502 水とみどりの原風景をつなぐまち（緑と清流課）
- ・701 生活環境の維持・向上と将来を見据えたコンパクトなまちづくり（都市計画課・区画整理課）

【第2次日野市環境基本計画】

- ・自然度の高いみどりの保全
- ・農地の保全と活用
- ・健全な水循環の構築

日野らしい自然を守り育てる

目標：8. 健全な生態系が維持されている

取組みの方向：8. 人と生きものが共生するための外来種・有害鳥獣対策

(1) 取組みの内容

日野市で問題となっている外来種や有害鳥獣を明らかにし、従来の生態系や農林水産業に悪影響を及ぼさないように対策を実施します

(2) 現況・課題

- シナダレスズメガヤなど河川敷に繁茂する植物や、ガビチョウなど樹林環境に定着した鳥類など、従来の生態系に影響を及ぼすおそれのある外来種の存在が顕在化しています
- 外来種や有害鳥獣による生態系や地域の産業への影響とその広がりについては情報が限定的であり、対策を検討するための情報収集が必要です
- アカミミガメやブラックバスなど、人為的な放流によって定着した外来種もいるため、飼育している生きものを放さないための普及啓発が必要です

(3) 各主体の役割

<日野市>

- 現在の日野市における外来種の生息状況と被害状況の現状把握を行い、侵略的外来種の選定を行います
- 外来種情報を収集、整理、発信し、市民や事業者と共有します
- 生態系に与える影響が大きく、駆除の優先度の高い侵略的外来種から駆除作業を行います
- 外来種の被害防止対策や捕獲方法の講習会の開催や、捕獲道具の貸出や処理の支援、相談窓口の開設など、市民の自発的な対策、駆除作業を支援します
- 外来種の影響について啓発活動を行い、個体の増加・拡散、新たな外来種の定着防止に努めます
- 有害鳥獣による農業・水産業への影響を把握し、必要に応じた対策を進めます

<市民・市民活動団体>

- 外来種や有害鳥獣の問題に関心を持ち、啓発活動や講習会などに参加することで、理解を深めます
- 飼育している生きものを野外に放さないようにします
- 外来種問題についてのイベントなど普及啓発活動に協力します
- 外来種の生息情報や被害情報の提供に努めます
- 有害鳥獣による被害対策を地域ぐるみで実施します

<事業者>

- 事業活動を通じた外来種の拡散リスクを明らかにし、個体の増加・拡散、新たな外来種の定着防止に努めます

<国・東京都・関係自治体>

- アライグマやハクビシンなどの外来種は、防除実施計画に基づいて日野市の取組みを支援します
- 東京都全体における外来種の増加、拡大防止の対策を実施し、市と連携して被害の低減を図ります
- 東京都全域における外来種や有害鳥獣の生息状況や被害状況についての情報を、収集・整理し、国や市町村と共有します
- 鳥獣保護管理事業計画を活用し、有害鳥獣の被害防止の取組みや体制づくりを支援します
- 緊急的に対策が必要な外来種に対しては、近隣自治体と連携して、被害防止対策や捕獲体制を進める体制を構築します

(4) 具体的な取組み

具体的な取組み	関連する主体				
	1	2	3	4	5
◎日野市侵略的外来種の選定	○				
・ 市民による外来種情報の収集	○	○			
・ 外来種の相談対応	○				
・ 外来種の駆除活動	○	○	○	○	○
・ 飼育している生きものを野外に放さないための普及啓発活動	○	○		○	○
・ 生活被害の防止対策の普及啓発、推進	○	○	○		
・ アライグマ防除実施計画の策定	○			○	
・ 外来種や有害鳥獣対策の効果検証のためのモニタリング調査実施	○	○			
→外来種や有害鳥獣の対策【担当部署：環境保全課・カワセミハウス】					
・ 有害鳥獣による農業被害の実態把握	○	○		○	
・ 外来種や有害鳥獣による農業被害の防止対策の普及啓発、推進	○	○		○	
・ 捕獲担い手確保のための狩猟免許取得者への支援	○	○		○	
・ 捕獲を含めた被害対策の体制構築	○	○		○	
→農業被害の対策【担当部署：都市農業振興課・環境保全課】					
・ 鳥インフルエンザへの対応	○				
→野生動物による健康被害の対策【担当部署：健康課】					

◎：重点プロジェクト

(5) 市が推進する既存の関連計画

【第5次日野市基本構想・基本計画 後期基本計画】

- ・ 506 心やすらぎ住みよいまち（環境保全課）

【第3次日野市農業振興計画】

- ・ (3) 魅力ある農業経営により日野農業を元気いっぱいになろう

【第2次日野市環境基本計画】

- ・ 日常生活をとりまく環境の充実

4.3 重点プロジェクト（案）

4.3.1 重点プロジェクトの考え方

日野市の生物多様性地域戦略の検討では、2020 年までに、日野市の生物多様性にとって緊急な行動を実施することを短期目標の案としています。また、第五次日野市基本構想の理念にある「市民が主役のまち」が示すように、市民参画・協働を重視した取組みが日野市のまちづくりの特徴と言えます。

これらのことをふまえて、これまで市民主体で検討された取組みを推進するために必要となる重点プロジェクトの選定基準を、以下の通り検討した。

重点プロジェクトの考え方（案）

- ①短期目標（2020 年）の達成に向けて「早急な対応が望まれる取組み」
- ②先導的に実施することで「市民への生物多様性の普及啓発効果の大きい取組み」

4.3.2 重点プロジェクト（案）

これまでの地域戦略策定委員会や市民参画部会で得られた具体的な取組みの中から、考え方（案）に合致する取組みを重点プロジェクト（案）として、内容の検討を行った。

一部の重点プロジェクト（案）については、第 7 回市民参画部会（6/20）において市民主体でできる取組みとして具体的な内容を検討した。

基本方針：人々の関心を高める

(1) 生きものウォーキングイベント			
該当する選定基準		②	関連する目標
1			
選定理由	市民の健康づくりの取組みに、生物多様性の視点で学び・楽しめる要素を加えることで、日常の活動から生物多様性の関心を高めることができます。		
内容	<p>既存のウォーキングマップに、生物多様性を感じることでできるスポットの紹介、日野らしい生物多様性の解説などを加えて、ウォーキングしながら生物多様性を楽しむ取組みを実施します。また、生きものガイドと一緒に歩くウォーキングイベントを開催します。</p> <p><関連事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野市ウォーキングマップ【文化スポーツ課】 ・歩きたくなるまちづくりの推進（日野市 3 戦略「ヘルスケア・ウェルネス戦略」） 		


(2) 自然にふれあう原体験の推進 市民参画部会で検討			
該当する選定基準	②	関連する目標	1
選定理由	日野市の生物多様性を幼少期に体験を通じて学び、体で理解することで、日野市の生物多様性を支える将来の世代を育むことができます。		
内容	<p>幼少期に、自然や生きものとのふれあいによる自然体験を促し、雑木林や用水などの日野らしい身近な自然を学ぶために、生物多様性の恵みを子供向けにわかりやすく解説する冊子を作成します。自然の原体験が豊富で、生物多様性を体で理解する“感覚”を備えた野生児を育てます。</p> <p>＜関連事業＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験と活動機会の提供を通じた「ふるさと日野」の醸成 <p>(日野市3 戦略「人口バランス・定住化促進戦略」)</p>		



(3) カワセミハウスのエコミュージアムの拠点化			
該当する選定基準	①・②	関連する目標	2・(3)
選定理由	生物多様性の拠点を結びつけるネットワークを構築することで、日野市全体の生物多様性の取組みを推進し、多様な主体が連携できる協働体制が構築できます。		
内容	カワセミハウスを拠点施設（コア）として、市内の生物多様性拠点（サテライト）とのつながりを形成し、コアとサテライトに市民や様々な主体との結びつきを生み出すことで、日野市全体をエコミュージアムとして機能させます。カワセミハウスは日野市の環境や生きものに関する情報を収集・発信するとともに、普及啓発、環境関連の活動支援、人材育成などを中心に推進します。		

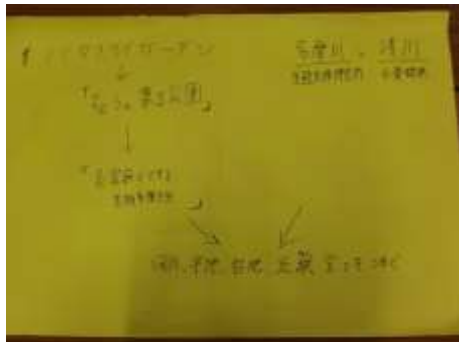
基本方針：人と自然の関わりをつくる

(4) 多様な主体による連絡会・情報交換会の開催			
該当する選定基準	①・②	関連する目標	3
選定理由	主体間の新たなつながりをつくることで、これまで各主体で独自に展開されていた取組みを水平展開し、市全体の生物多様性の取組みを促進させることができます。		
内容	<p>日野市で生物多様性に関連する取組みを行っている、市民活動団体や事業者など、それぞれの主体が集まり、話し合いができる場づくりを行います。各主体の取組みを整理し、それぞれの主体の強みを活かしながら連携できる方法について検討を行うことで、全ての主体が一体となって生物多様性に関連する活動を推進する体制構築を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カワセミハウス協議会を通じた環境団体と自治会等の連携促進【地域協働課】 ・市民フェアを通じた環境団体も含めた市民活動の連携【地域協働課】 		

(5) 市民でできる生きものの調査マニュアルの作成 市民参画部会で検討			
該当する選定基準	②	関連する目標	4
選定理由	市民が生きものを調べるツールをつくることで、人と自然の新たな関わりを生み出すことができます。学校活動へと展開することで、子どもの生きものへの関心・興味を育みます。		
内容	<p>市民の目で広域的に日野市の自然や生物多様性を把握するために、誰でもできる生きものの調査マニュアルを作成します。環境ごとに生きものの状況を把握できる内容にし、子どもでも使えるツールとします。最終的には学校の行事としても利用できる調査マニュアルを目指します。</p> 		

基本方針：日野らしい自然を守り育てる

(6) 民有緑地の公有化による東豊田緑地保全地域の拡張			
該当する選定基準	①	関連する目標	6
選定理由	開発によって失われる可能性の高い民有緑地を公有化することで、市内の緑地を保全することができます。		
内容	東豊田緑地保全地域に隣接する民有緑地を公有化し、緑地の拡充を図ります。市内のまとまった崖線の緑を保全することで、日野らしい自然を将来の世代に残します。		

(7) ちょうの集まるまちづくり <u>市民参画部会で検討</u>			
該当する選定基準	②	関連する目標	7・(4)
選定理由	家庭で出来る生物多様性の取組みを推進することで、家庭内や地域間での生物多様性の関心を高めることができます。		
内容	<p>蝶の好む蜜源植物や、幼虫の餌となる食草を配置したバタフライガーデンを公園に設置し、市民の力を借りて維持管理作業を実施します。蝶の生態や生きものと共生するまちづくりについて市民の関心を高め、さらに自宅の庭にも蝶を呼び込む取組みとして展開することで、家庭で出来る生物多様性向上の取組みを推進します。</p> 		

(8) 日野市の侵略的外来生物の選定			
該当する選定基準	①・②	関連する目標	8
選定理由	侵略的外来種の対策は緊急性の高い課題であり、外来種が及ぼす生態系への悪影響を把握し、普及することで、市民の自然に対する正しい知識を育むことができます。		
内容	日野市の生物多様性に悪影響を及ぼす侵略的外来生物の現状を明らかにし、早急に対策が必要な種をリストアップします。		

5. 推進体制と進行管理

5.1 推進体制（案）

5.1.1 推進体制について

地域戦略の策定後に、取組みを実行するための推進体制を検討します。様々な主体の連携を図るための組織体と、役割を調整するための組織体を設け、各主体との結びつきや位置づけを定めます。庁内の役割分担や主体間の連携体制が明確になることで、地域戦略を効果的に推進することができます。

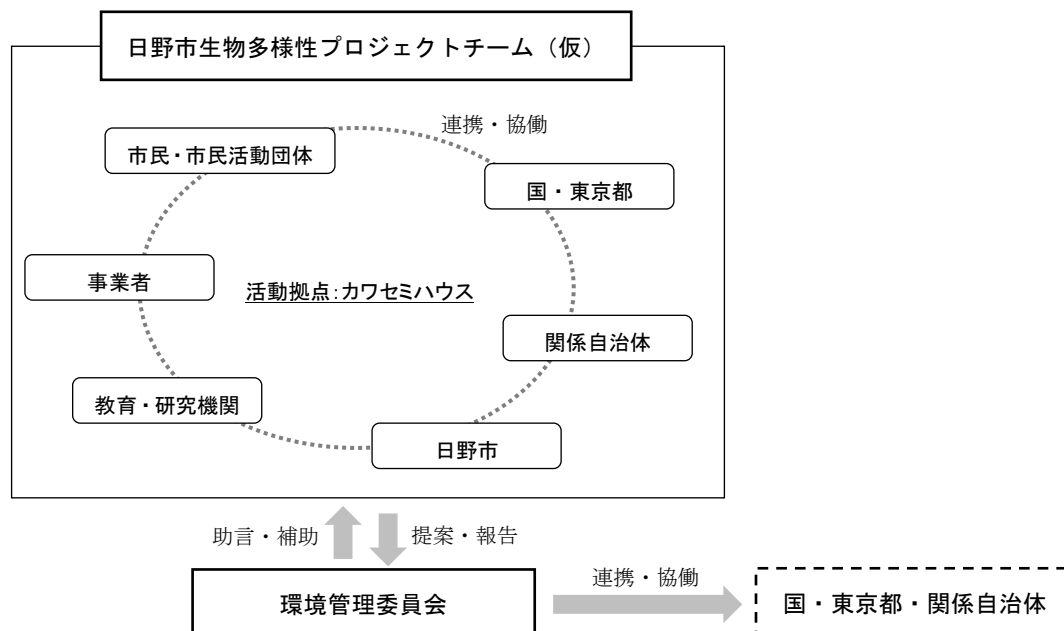
5.1.2 地域戦略を推進する組織体

様々な主体の連携を促し、それぞれの役割を調整するために、以下の組織体の構築を検討します。

組織名	内容
日野市生物多様性プロジェクトチーム（仮）	各主体に関連するメンバーで構成される組織 取組みごとに関係主体で連携し、活動を実践する
環境管理委員会	市役所内部の全部局の部長級から構成される庁内の会議体 取組みごとに関係部局の役割や連携を調整する

5.1.3 推進体制

組織体と主体の位置づけは以下のとおり検討している。



5.2 進行管理（案）

5.2.1 進行管理の把握

生物多様性の保全を継続的に進め、社会や自然環境の変化に対応するために、地域戦略の順応的な見直しと改善を定期的の実施します。

5.2.2 PDCA による継続的な実施と地域戦略の見直し

地域戦略の進行管理は、PDCA サイクル（順応的管理手法）により継続して実施し、進行管理は環境管理委員会が行います。取組みの進捗報告はひのエコ（日野市環境マネジメントシステム）や HP 等で公表します。

取組み状況の検証と計画の見直しは、第 5 次日野市基本構想・基本計画等と同じ年度に合わせて 5 年おきに実施します。

